



環境社会報告書2006

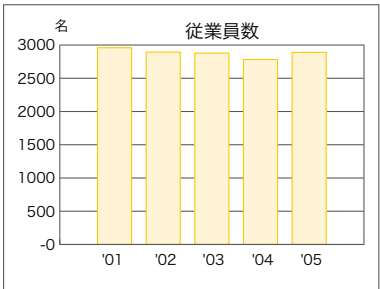
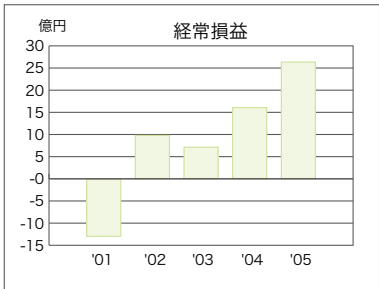
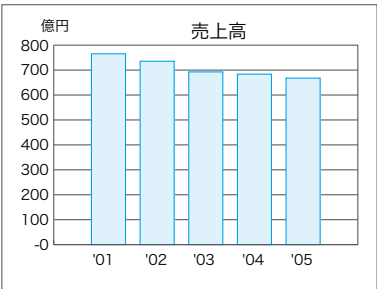
カワイグループの事業と会社の概要

社名 株式会社河合楽器製作所
本社 静岡県浜松市寺島町 200 番地
創立 1927 年 (昭和 2 年)8 月 9 日
代表者 代表取締役社長 河合弘隆
資本金 58.54 億円 (2006 年 3 月末現在)

売上高		2003年度	2004年度	2005年度
単独	百万円	54,030	54,338	57,104
連結	百万円	69,283	68,376	66,776

従業員数		2003年度	2004年度	2005年度
単独	名	1,571	1,936	2,039
連結	名	2,878	2,782	2,889

カワイグループ 連結子会社 24 社
持分法適用子会社 5 社



当社グループの主な事業

楽器事業

ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、楽器付属品、楽器玩具の販売及び楽器調律・修理の役務提供業務

国内での販売

全国直営店・デパート・販売代理店
(株) デイアソン 他 4 社

海外での販売

カワイアメリカコーポレーション
カワイヨーロッパ GmbH.
カワイカナダミュージック Ltd.
カワイオーストラリア PTY.Ltd.
河合貿易 (上海) 有限公司
カワイ英国 Ltd.
カワイオランダ B.V
カワイアジア PTE.Ltd.
海外販売代理店及び商社

楽器の調律・修理
調律サービス室

楽器の保管・配送
物流室

楽器の国内での製造
(株) 河合楽器製作所 舞阪工場
(株) 河合楽器製作所 竜洋工場
メルヘン楽器 (株)

楽器の海外での製造
ミディミュージックセンター Inc.
PT. カワイインドネシア
カワイアジアマニュファクチャリング SDN.BHD.
河合楽器 (寧波) 有限公司

教育関連事業

音楽教室・体育教室の運営、教材販売・楽譜・音楽教育用ソフトの製造及び販売

素材加工事業

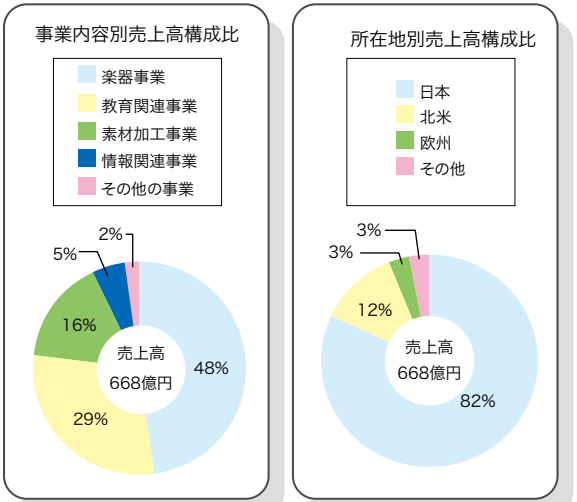
電子電気部品用材料、自動車部品用材料、防音室、音響部材の製造及び販売
金属異形圧延加工品の製造 カワイ精密金属 (株)
自動車部品用材料の製造 (株) カワイハイパーウッド
防音室・音響部材の販売
音響事業部及び (株) カワイ音響システム

情報関連事業

OA 機器の販売修理及びソフトの販売、情報処理事務サービス事業 (株) カワイビジネスソフトウェア

その他事業

金融関連事業、保険代理店事業等 (株) カワイアシスト



編集方針	
内容	
・カワイグループにおける環境活動側面に加え2003年版からはコンプライアンス等社会的側面を掲載し企業における社会的責任を充実させました。 なお経済側面につきましては概要を左頁に、経営計画等を「はじめに」の中へ記載し、カワイのマネジメントへの取組みを報告しました。経済側面の詳細につきましては当社ホームページや「有価証券報告書」をご参照願います。	
対象	
・お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、地域住民・N G O、行政・国際機関など多様なステークホルダーの皆さまを対象としています。	
2006年版について	
・出来得る限り各項目ごとに方針（ポリシー）を記述し、皆さまにカワイの取組みをわかりやすく伝えるように努めました。 ・事業活動に伴う環境配慮については環境側面毎に纏めました。 グリーン調達、化学物質、温暖化対策、廃棄・再資源化 ・関連資料は資料編にまとめました。 ・記載内容の信頼性確保のため自己評価を実施するとともに客観性を高めるため第三者機関「テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社」に評価を依頼し、第三者意見書を掲載しました。	
○参考にしたガイドライン	
・環境省「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き【試行版】2006」 ・環境省「環境報告書ガイドライン(2003)」 ・環境省「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン2002」 ・G R I「持続可能性報告のガイドライン2002」 ・経産省「ステークホルダー重視による環境レポートガイドライン2001」	
報告対象期間	
・2005年度（2005年4月～2006年3月）を主体としていますが、一部重要な事項については2006年4月以降の最新情報も含んでいます。 ・集計方法の見直しなどにより既報データを一部修正し掲載した項目・数値があります。	
報告対象組織	
・(株)河合楽器製作所 本社/舞阪工場/竜洋工場 ・メルヘン楽器(株) ・(株)カワイハイパーウッド ・カワイ精密金属(株) 本社・浜松工場/松本工場	
報告書発行履歴と次回発行予定	
・環境報告書2001 2001年12月 ・環境報告書2002 2002年11月 ・環境報告書2003 2003年10月 ・環境社会報告書2004 2004年11月 ・環境社会報告書2005 2005年09月 ・環境社会報告書2006 2006年09月 次回は2007年9月を予定しています	

環境社会報告書2006		カワイホームページ		環境社会報告書2006		カワイホームページ	
頁	項目	アドレス		頁	項目	アドレス	
4	IRサイト	http://www.kawai.co.jp/ir/		21	カワイ英語教室	http://www.kawai.co.jp/school/english/	
6	地球環境憲章	http://www.kawai.co.jp/company/earth_env.html			カワイ絵画造形教室	http://www.kawai.co.jp/school/creation/	
	環境方針	http://www.kawai.co.jp/kankyo/pdf/policy/kp_20040127.pdf			カワイミュージックスクール	http://www.kawai.co.jp/school/popular/	
8	カワイ竜洋工場	http://www.kawai.co.jp/press/release19971002.html			カワイ体育教室	http://www.kawai.co.jp/school/physical/	
11	グリーン調達ガイドライン	http://www.kawai.co.jp/kankyo/pdf/guideline/kg_20040130.pdf			カワイ音楽学園	http://www.kawai.co.jp/gakuen/	
	木材調達ガイドライン	http://www.kawai.co.jp/kankyo/pdf/guideline/kw_20060629.pdf			カワイピアノ/テクニカルセンター	http://www.kawai.co.jp/sc/tcenter.html	
20	カワイショップオンライン	http://www.kawaishop.jp/		22	環境への取り組み	http://www.kawai.co.jp/kankyo/	
	防音室ホームページ	http://www.kawai-os.co.jp/nasal/			2005年度グッドデザイン賞受賞	http://www.kawai.co.jp/press/20051003.html	
	意美音(イミオン)	http://imion.jp/			そだちのきろく	http://www.kawai.co.jp/press/20060622.html	
21	カワイ音楽教室	http://www.kawai.co.jp/school/music/					

はじめに

目次	
◎はじめに	
カワイグループの事業と会社の概況	1
編集方針 / 目次 / ホームページアドレス	2
社長コミットメント	3
カワイの経営の理念、行動指針	
経営計画	4
新中期経営改善計画	
環境経営	5
コーポレートガバナンス	
◎環境報告	
カワイの環境への取組み	
地球環境憲章 / カワイ環境方針	6
カワイの環境推進組織	
環境経営	
2005 年度の環境目標と実績	7
環境マネジメントシステム	8
環境教育	9
環境会計	10
事業活動に伴う環境配慮	
グリーン調達の状況および方策	11
木材調達ガイドライン	
化学物質に関する環境配慮	12
各事業所における環境配慮	
地球温暖化防止への取組	13
流通における温暖化対策	
廃棄物削減と再資源化	14
容器包装リサイクル法	
リサイクル・リユース	
環境パフォーマンス	
マテリアルバランス 2005	15
サイトでの取組例	17
法規制の順守	18
◎社会性報告	
組織で働く全ての人との関係	19
お客様との関係	
満足度	20
社会貢献活動	21
環境コミュニケーション	
情報発信	22
地域活動への参画	23
◎資料編	
環境負荷サイト別一覧	25
カワイグループの歩み	26
第三者意見	27
自己評価結果報告	29
2005 年度アンケート結果	
2006 年度アンケートのお願い	30

「お客様の満足」「環境経営」をキーワードに
「快適で豊かな生活環境の創造」を追及しつづけます。

社長コミットメント

当社グループは、「創造性豊かな好感度企業をめざして」を柱とし、「快適で豊かな生活環境の創造」「お客様の満足を第一とした商品・サービスの提供」「新しい時代に向けた企業活動の推進」「社員を大切にし、明るい企業をめざす」を経営の理念としております。この経営の理念のもと、ピアノや教育関連事業をはじめとする製品及びサービス等を通じ、快適で豊かな生活環境を創造し持続させることを約束いたします。

現在最終年度を遂行中である「新中期経営計画」におきましては、経営体質をより強靱なものとするため、本業回帰を基本軸に経営資源を有効再配分し、より高い収益性、健全性、透明性を目指す経営体制確立のための改革とその実践に取り組んでおります。

さて2006年5月に新しい「会社法」が施行され、内部統制システムの構築が義務化されましたが、当社としても、継続的に企業価値を高めていくうえで、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題としてとらえております。そのためには株主・投資家の皆様、お客様、取引先、地域社会、従業員等の当社を取り巻く様々なステークホルダーから信頼される経営姿勢が重要であると考えております。その実現に向け、内部統制システムやコンプライアンス体制の整備等の様々な方策を実現させるとともに、IR活動の強化により公正で透明性の高い経営体制の実現を目指しすべての事業活動において法令順守・安全を最優先します。

また音楽、体育教育事業に携わる当社にとって、「個人情報保護法」の順守は必須であります。そのため、「**情報セキュリティ委員会**」を設置して、機密情報のセキュリティ確保、適正な情報管理体制の構築、情報漏洩等の事故防止対策を推進するとともに、「**カワイ倫理規範**」「**倫理行動基準**」を制定し、企業倫理室を主体にコンプライアンスを徹底すべく取り組んでまいりました。

さらに、企業の社会的責任を果たすために、リスクマネジメント体制の強化に取り組みましたが、2006年6月に恒常的組織として「**リスクマネジメント委員会**」を設置しました。常にリスクの重要性を認識し、リスク発生の未然防止に努めるとともに、リスクが顕在化した場合の迅速な情報伝達と対応を図ります。その行動指針においては、人道的・社会的視点を優先した対応を図ることとしております。

地球環境問題については、「**地球環境委員会**」にて環境方針を定め、環境目標の一つに「グリーン調達」を掲げています。より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的

に調達するよう2004年1月に「**カワイグリーン調達ガイドライン**」を制定し、グループ全体で積極的に取組んでまいりました。中でもピアノ等楽器の製造において木材は欠くことのできない重要な原材料であります。この持続可能な資源である木材の調達における当社の考え方を、明文化するよう昨年指示したところありますが、本年6月の環境月間における地球環境委員会にて「**木材調達ガイドライン**」として開示することができました。基本理念を「カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を有効活用する、木材のグリーン調達を推進する。」とし、5項目の基本方針を掲げました。

また当社グループ会社におきましても、それぞれの事業分野での課題に取り組み、環境配慮に心がけています。近年業績が伸張を続けている素材加工事業のカワイ精密金属(株)においては、塩素系有機溶剤を用いない代替金属洗浄技術の検討を進め、近々実行に移ります。また塗装事業の(株)カワイハイパーウッドにおきましても、塗装方法・設備の改善により廃棄物の大幅削減を実現するとともに、騒音対策によって周辺地域への環境配慮も心がけています。

私どもカワイグループは、様々な事業活動を通じて、経営の理念を実現するとともに、皆様から信頼される企業になるべく邁進してまいります。

今回も報告書の情報の信頼性、取り組みについてテュフラインランドジャパン株式会社に第三者としてのご意見を頂きました。今後とも皆様のご理解とご協力をいただけますようこの環境社会報告書がステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとなれば幸いに存じます。

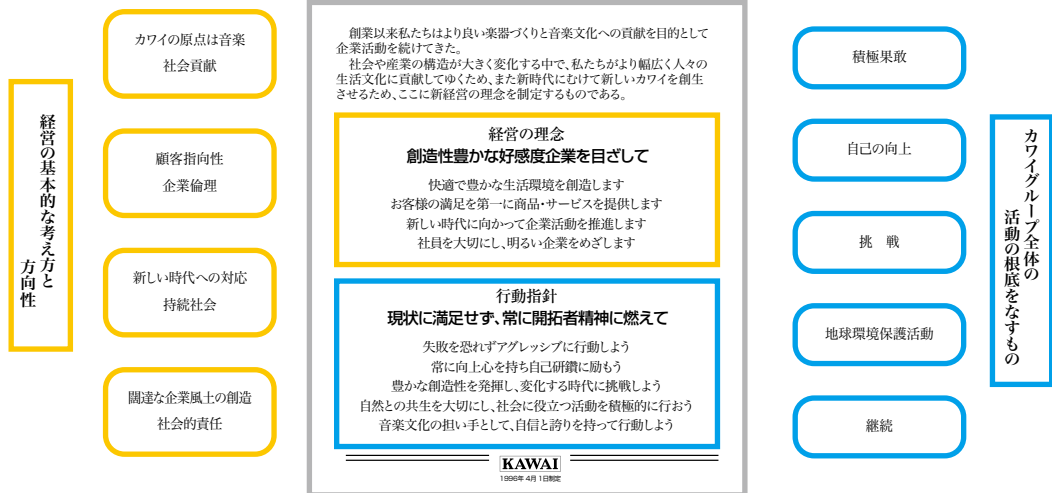
どうぞ忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

取締役社長

河合弘隆



カワイの経営の理念・行動指針

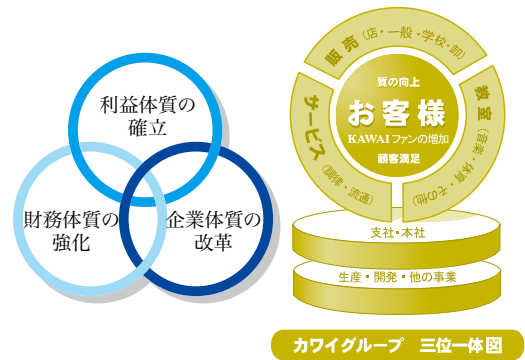


新しいビジョンによる経営体質の強化と
KAWAI ブランドに対する信頼の維持を図ります

経営計画 新中期経営計画 / 株主・投資家の皆様へ

新中期経営計画

財務体質の強化と株主の皆様への長期安定的な利益還元を図るため、2004年4月より新中期経営計画をスタート致しました。同計画は経営体質をより強靱なものとするため、本業回帰を基本軸に経営資源を有効再配分し、より高い収益性、健全性、透明性を目指す経営体制確立のための改革とその実践を図るものです。



同計画の第2年度である当年度は楽器事業においては高収益志向販売および海外生産比率の拡大による原価低減、教育関連事業においては収益性拡大への構造改革、素材加工事業においては受注増加および原価対策に取組みました。

この結果、当連結会計年度の売上高は66,776百万円となりました。利益につきましては、原価の低減および経費の削減により営業利益は2,462百万円、経常利益は2,634百万円となりました。

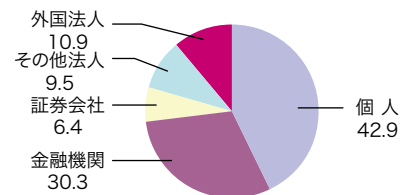
新中期経営計画		[単位:億円]		
	初年度	第2年度		最終年度
	実績	計画	実績	計画
売上高	683.7	663.5	667.7	668.0
営業利益	21.6	26.0	24.6	27.0
経常利益	16.0	22.5	26.3	24.0

株式の状況 2006.3.31現在

発行予定株式総数	288 百万株
普通株式	282 百万株
第1種優先株式	6 百万株
発行済株式総数	84 百万株
普通株式	80 百万株
第1種優先株式	4 百万株
株主総数	9,643 名
普通株式	9,643 名
第1種優先株式	1 名

株主の所有者別状況

2006.3.31 現在、当社の普通株式総株主数は9,643名で、個人に42.9%、金融機関・証券会社に36.7%、その他法人に9.5%、外国法人に10.9%の株式を保有していただいております。



- 計画期間
2004年4月1日～2007年3月31日
- 基本姿勢
企業価値の拡大と恒常的利益体質の構築
- 基本方針
 - 利益体質の確立
主力の楽器事業及び教室事業における収益改善
エリア主導の新販売体制へ転換し営業力を強化
価値連鎖による実践型ビジネスモデルの構築
ピアノ生産体制の集約再編による原価低減の徹底
 - 財務体質の強化
資産圧縮及び有利子負債の削減促進
キャッシュフロー経営の重視
 - 企業体質の改革
人心の一新を図りチャレンジする企業風土の創造
利益重視への政策転換
実力、成果志向の新人事処遇制度の早期導入
ITの積極的活用による業務効率化と戦略的活用

情報の開示

◎ IR サイト



<http://www.kawai.co.jp/ir/>

ステークホルダーの皆様にかワイの経営戦略や財務内容を開示し適切な企業価値へと結びつける活動(IR)の手段としてホームページにIRサイトを開示しています。新着情報のほか財務データをトレンドでまとめた「財務データ」や「決算公告」「決算情報」「事業報告書」「株式情報」などを主な内容としています。

◎事業報告書

株主の皆様には、事業報告書を年2回お送りしています。直近の財務情報に加え、トップのコミットメントや当期のトピックス、事業所紹介などをお伝えしています。



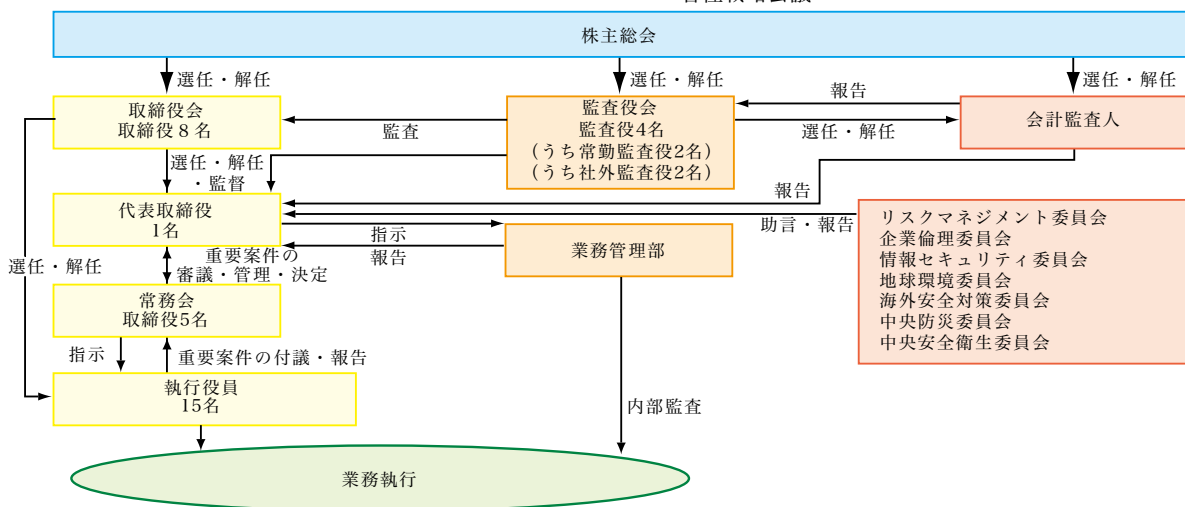
継続的に企業価値を高めていくには
コーポレート・ガバナンスの充実が最も重要な経営課題と捉えています。

環境経営 コーポレートガバナンス

コーポレート・ガバナンスの状況

当社は継続的に企業価値を高めていく上で、コーポレート・ガバナンスの充実を最も重要な経営課題として捉えており、そのためには株主・投資家の皆様、お客様、取引先、地域社会、従業員等の当社を取り巻く様々なステークホルダーの皆様から信頼を勝ち得ることを目指す経営姿勢が重要であると考えています。その実現に向け、カワイでは株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの法律上の機能に加え、経営体制の改革、内部統制の整備等の様々な施策を実現させるとともにタイムリーな情報開示により公正で透明性の高い経営体制の実現を目指しています。

- ・監査役会：社外監査役 2 名を含む 4 名で構成
- ・取締役会：8 名で構成（社外取締役は 0）
- ・平成 14 年 4 月より執行役員制度を採用（現在 15 名）
- ・平成 17 年 6 月 29 日開催の第 78 期定時株主総会以降においては取締役の役割と執行役員の役割の区別をさらに明確化した上で、取締役の機能と執行役員制度の強化を図り、全社的課題への対応力および業務執行における指揮命令系統を充実
- ・経営会議体として
 ステアリング・コミティ
 全社戦略会議
 各種戦略会議



リスク管理体制の内容

当社のリスク管理体制は、業務執行に伴うリスクを未然に防止し、またリスクが顕在化した場合には、社会的、経営的な影響を最小限にとどめるため、

職制により組織的に対応するものから必要に応じグループ全体を対象とした委員会を設置するなど機動的な対応に努めています。

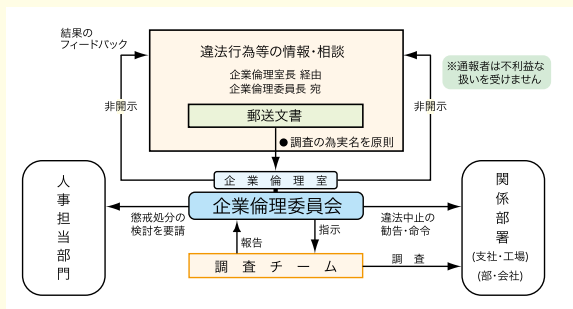
主なリスク管理に関する委員会

*リスクマネジメント委員会

当社グループ全体のリスクへの対応のために、規定類の整備、運用状況の確認、要員の訓練、研修等を企画実行するとともに全社リスク管理状況を定期的に取締役会に報告。傘下下記設の委員会を設置しています。また、不測の事態が発生した場合には「緊急対策本部」を直ちに設置し迅速な対応と損害拡大の防止にあたります。

* 企業倫理委員会

コンプライアンス経営を推進するため、法令順守に加え社会的な規範をも包含したコンプライアンス要綱（カワコン倫理規範、倫理行動基準を含む）を制定するとともに弁護士等外部有識者を加えた企業倫理委員会を設置しています。また企業倫理に関する統括部門である企業倫理室を主体に、企業倫理ホットラインの運営と従業員への教育、啓蒙によるコンプライアンス意識の向上に努めています。



*情報セキュリティ委員会

個人情報を含めた機密情報のセキュリティ確保、適正な情報管理体制の構築、情報漏洩等の事故防止対策を推進しています。委員会ではハードソフト両面から規定の制定を含む様々な対策に取り組んでいます。

* 地球環境委員会

カワイは1994年に地球環境委員会を設置し、地球環境の保全に積極的
に取り組んでいます。地球環境委員会ではカワイの地球環境憲章、
カワイ環境方針、グリーン調達ガイドライン、木材調達ガイドライ
ン等を制定しました。また環境に関する法令の順守はもとより環境保
全の目的・目標を定め環境汚染によるリスクの軽減に努めています。

P6を参照してください。

* 海外安全対策委員会

海外子会社、海外駐在員並びに海外出張者のリスク管理を行っています。

* 中央防災対策委員会

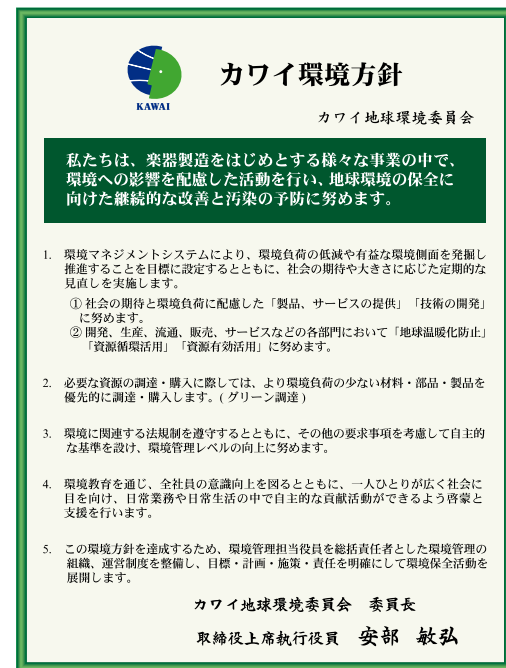
カワイグループにおける火災、風水害、その他の災害の予防対策確立及び災害発生時の被害を最小限に止めるための諸活動を行っています。

* 中央安全衛生委員会

カワイグループの従業員の安全衛生思想の高揚を図り災害及び疾病を予防するための諸活動を行っています。

カワイ地球環境憲章に基づく環境方針で
オールカワイの推進組織により環境保全活動を展開します

カワイの環境への取組 地球環境憲章 / 環境方針 / 環境推進組織



地球環境憲章

カワイはすばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取り組みが必要であると認識しています。

世界の良き企業市民として環境の保全に努めつつ、人と地球にやさしい優れた商品を通じて社会からの信頼と共感の道を進むために「地球環境憲章」を1994年に制定致しました。



<http://www.kawai.co.jp/kankyo/>

http://www.kawai.co.jp/company/earth_env.html

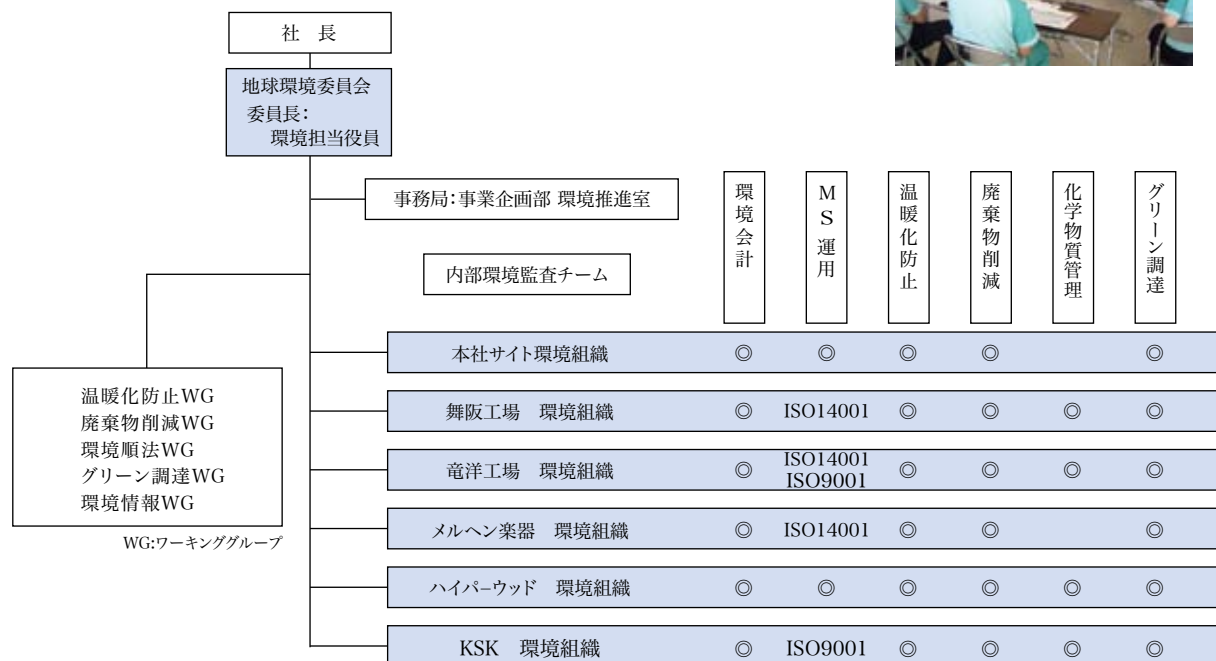
カワイ環境方針

河合楽器地球環境委員会はこの「地球環境憲章」を受け「環境方針」を制定しています。今年度も見直しを図りました。《有益な環境側面の発掘》《地球温暖化防止》《資源循環活用》《資源有効活用》《グリーン調達》等の推進に全社一丸となって邁進します。



カワイの環境推進組織

環境経営を推進する組織として、1994 年に環境担当役員を委員長とする地球環境委員会を設置し、環境保全に関する全社環境方針や目的・目標を設定し活動しています。毎年環境月間の 6 月には各サイトの昨年度実績及び当年度の目標を報告する全体会議を開催しており、2005 年度は『環境の日』の 5 日が日曜日のため 6 月 6 日(月)に実施致しました。



運用 24 項目の内満足できたものは 19 項目でした。
次年度は是正処置の実施等、一層の努力をいたします。

環境経営 2005 年度の環境目標と実績 および次年度目標

2005 年度の環境目標と実績 および次年度目標

2005 年度は環境 3 カ年計画の 2 年度でした。運用 24 項目の内 19 項目は満足できる結果となりましたが残る項目については今一步の状況で終わりました。次年度は対策施策の見直しを図り目標値を達成するよう努力します。

(到らなかった項目の分析・対応状況は後日ホームページ上で報告致します)

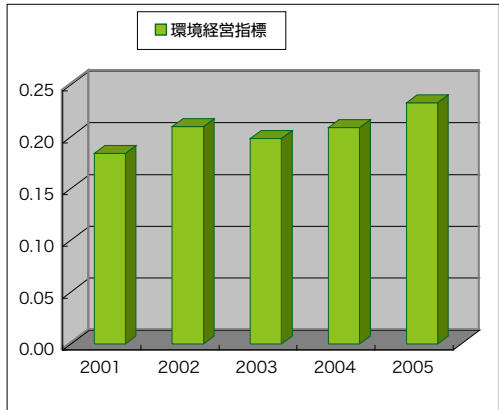
項 目		基準年	目的年	2005年度			次年度 目標	報告書 関連頁
				目標	実績	評価		
地球温暖化防止	エネルギー原単位を3%減	2003	2006	-2%	20%	⦿	是正	7
	電力量原単位を3%減	2003	2006	-2%	18%	⦿	〃	7
	電力量を絶対値比15%削減	2003	2006	-10%	13%	⦿	〃	15
	エネルギーCO ₂ 排出量を15%削減	2003	2006	-10%	16%	⦿	〃	15
	物流輸送に伴うCO ₂ 排出量を20%削減	2003	2006	-15%	-26%	⦿	-20%	13
資源循環活用	廃棄物(埋立焼却)原単位を9%削減	2003	2006	-6%	-23%	⦿	-9%	7
	廃棄物(埋立・焼却)排出量を絶対値比10%削減	2003	2006	-6%	-26%	⦿	-10%	15
	再資源化比率を60%以上とする	2003	2006	運用	81%	⦿	運用	7
資源有効活用	水使用量を20%減	2003	2006	-10%	-19%	⦿	-20%	15
	化学物質使用量を10%減	2003	2006	-6%	38%	⦿	-10%	12
人材育成 環境教育	内部監査人ブラッシュアップ教育 階層別環境教育 法定資格者の2倍育成			30名	30名	⦿	100%	9
				100%	100%	⦿	100%	
				100%	100%	⦿	100%	
				100%	100%	⦿	100%	
順法	環境法規制への対応 罰金科料件数ゼロ件			100%	100%	⦿	100%	18
				0件	0件	⦿	0件	8
地域貢献 コミュニケーション	地域イベントへの参加 環境工場見学の受け入れ(竜洋工場) 近隣からの訴訟・苦情			100%	100%	⦿	100%	23・24
				300人	994人	⦿	500人	23
				0件	0件	⦿	0件	8
環境配慮製品	LCA評価による環境配慮設計 環境影響物質の削減 鉛等の化学物質廃止			100%	100%	⦿	100%	12
				鍵盤鉛廃止ピアノ30%	38%	⦿	40%	
グリーン調達	GPNガイドラインの活用 カワイガイドラインの運用 サプライチェーンマネジメント			100%	100%	⦿	100%	11
				運用	運用	⦿	運用	
				取引率30%	取引率31%	⦿	取引率40%	

次年度目標は2003年を基準年とした中期計画の最終年度目標値です

⦿ 達成 ⦿ あと一歩

指標	単位	基準年 2003	前年度 2004	当年度 2005	基準年比 [%]
環境経営指標	ton-CO ₂ /百万円	0.20	0.21	0.23	117.4%
エネルギー原単位	GJ/百万円	3.20	3.40	3.83	119.6%
電力量原単位	GJ/百万円	2.65	2.80	3.12	117.7%
廃棄物(埋立・焼却)原単位	kg/百万円	7.38	7.31	5.70	77.2%
廃棄物(リサイクル)原単位	kg/百万円	18.21	24.68	24.74	135.8%
再資源化率		71.2%	77.2%	81.3%	114.2%

環境経営指標：CO₂排出量/売上高
原単位：売上高100万円に対する指標



環境マネジメントシステムをカワイの環境経営の基本的なしくみと位置付け
楽器製造事業部門の早期取得をめざしました。

環境経営 環境マネジメントシステム

ISO14001 認証取得状況

世界一のピアノづくりを進めるカワイは「美しい音は美しい環境からしか生まれない」と信じています。20 年前、竜洋工場の建設に当り敷地を緑地化し「森の中の緑の工房」をめざしたのもこうした信念があったからなのです。

かけがえのない地球の環境問題を、社員一人ひとりが身近なところから考える。その思想と想いは私たちのつくるピアノの音にきつと表われる。そんな確信のもとにカワイは全社をあげて環境保全に取り組んでいます。

カワイでは環境マネジメントシステムを環境経営の基本的なしくみと位置付け、楽器製造事業部門の早期取得をめざしました。97 年にグランドピアノ製造の竜洋工場が楽器業界で世界初の ISO14001 を取得したのを初め、アップライトの舞阪工場、電子楽器製造のメルヘン楽器 (株) と続けて取得し、グループが一体となった継続的な環境パフォーマンスの改善活動を推進しています。

今後は品質マネジメントシステムの ISO9001 とともに環境及び品質を守る仕組みの維持向上に努めます。

ISO14001 認証取得

生産サイト	取得年月
カワイ竜洋工場	1997/ 9
カワイ舞阪工場	1998/ 9
メルヘン楽器株	1999/10



環境リスクマネジメント

環境リスクを防止するため、カワイは法律で定められた基準よりもさらに厳しい自主管理基準を設けています。また起こりうる事故を想定した緊急事態対応訓練も定期的を実施しています。 P18 参照願います



地震時等の破損による油の流出を想定して現場で定期テストを実施しています。緊急資材の配備状況、流出防止側溝シャッターが機能しているか等の検証や緊急時連絡体制に不具合がないか、など手順書の見直しも行います。

環境監査

当社では ISO14001 規格で要求されている継続的改善の P・D・C・A を回すため、定期的に「外部審査」「内部環境監査」を実施しています。

< 外部審査 >

認証取得サイトでは、認証機関により毎年のサーベイランス審査、3 年毎の更新審査でシステムが有効に機能しているかが審査されます。2005 年度は下記の日程で実施されました。

生産サイト	審査年月	審査の種類	評価	重	軽	観
カワイ竜洋工場	2005/8	8年目 2年次審査	維持	0	2	5
カワイ舞阪工場	2005/8	7年目 1年次審査	向上	0	0	1
メルヘン楽器株	2005/9	6年目 更新審査	適合	0	0	2

重: 重大な不適合 / 軽: 軽微な不適合 / 観: 不適合以外の観察事項

指摘事項に対し全て是正処置を完了し、かつ他部門への展開を図るなど継続的改善に努めています。

指摘事項の例

木工課の接着剤廃液は有意側面に登録されていますが、この廃液処理施設の管理手順書が設定されていません。
是正処置
廃液処理施設の作業手順書を作成し標準化します。
管理項目測定頻度等も検討し、文書化します。



< 内部環境監査 >

各サイトでは、年 1 回以上の頻度で内部環境監査を実施しています。システム上や運用上の問題点を抽出し不具合の点を是正しています。内部監査では、悪い点だけでなく各サイトでの良い点を他部門にも広げるよう、水平展開にも重点をおき環境マネジメントシステムの継続的改善を図っています。

2005 年度の実施状況は下記のとおりです。

生産サイト	審査年月	評価	重	軽	観
カワイ竜洋工場	2005/07	向上	0	3	13
カワイ舞阪工場	2005/12	向上	0	2	5
メルヘン楽器株	2005/08	向上	0	2	4

2005 年度の事故等

2005 年度も環境に関する法規制値の逸脱、事故、苦情はありません。また訴訟・罰金・科料もありませんでした。なお関係当局よりの違反等の指摘は、過去五年間ありません。

環境教育は環境経営実現の第一歩と認識しています。

環境経営 環境教育

環境教育

カワイでは環境経営実現のためには、教育が不可欠と考え、グループ員の環境教育・啓発に努めています。ISO 取得工場では EMS に基づいた全員教育、各種専門教育を実施し継続的改善を進めています。

主な教育の内容		
教育の内容		対象者
一般教育	新入社員教育 ISO14001 力量教育、自覚4項目等 ISO14001:2004 ISO9001:2000 規格要求事項 環境社会報告書について 「環境について考えよう」	新入社員 ISO取得工場全員 管理者他 役員、従業員 役員、従業員、音楽学園生徒
	内部環境監査員養成 ブラッシュアップ教育 各種環境専門教育 当年度の目的・目標と進め方 EMSについて(ISOやエコアクション21とは) EU RoHS & WEEE 指令について 欧州規制と企業経営 「グリーン調達とは」 木材調達ガイドラインについて	内部環境監査員予定者 内部環境監査員 ISO取得工場担当者及び関連者 ISO事業場管理者教育 取引先、協力会社、購買部門 取引先、購買部門 管理者教育 取引先、購買部門(部品・原材料、文具類) 取引先、購買部門
専門教育		

内部環境監査員の養成 / ブラッシュアップ教育

カワイでは、内部監査の精度の向上のために内部環境監査員の養成をまた内部監査員の能力向上のためブラッシュアップ(レベルアップ)教育を実施しています。現在三サイトで 30 名登録しています。

原点にかえって
環境について考えよう
はじまり

静岡県に何が起ころの

グリーン調達とは

グリーン調達における
木材について
カワイの木材調達ガイドライン

環境教育での
テキスト
や
プレゼンテーション

サプライチェーンの皆様へ

サプライチェーンの皆様



国際的な環境規制と企業経営

政策の統合

J-MOSS JIS-C0950:2005

環境会計は環境経営のものさしとして捉えています。
2005 年度の環境保全コストは 4 億 9 百万円でした

環境経営 環境会計

カワイでは環境会計を、環境経営の定量的指標のものさしとして捉え、2000 年度から環境省のガイドラインに基づいて集計を始めました。2005 年度も昨年と同様の基準、対象範囲としましたが一部インフラの整備により対象から外れたサイトがあります。

当社の環境会計はまだ発展途上であり、保全コスト効果の把握・集計にとどまっていますが、指標化・活用化を図り、環境経営に役立てていきます。

参考書	環境省環境会計ガイドライン 他
対象サイト	カワイグループ国内 6 サイト
対象期間	2005 年 4 月～2006 年 3 月

環境保全コスト		[単位：千円]					
分 類	2005年度の事例	2003		2004		2005	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
事業エリア内コスト							
公害防止コスト	煙突改修集塵機移設等公害防止に掛けたコスト	147	15,608	382	29,114	32,145	15,947
地球環境保全コスト	冷温水ポンプインバータ化など	61,000	225	21,000	842	51,597	1,524
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル・処分のコスト		63,496		69,782		76,946
上・下流コスト	ピアノのリサイクル、グリーン調達		67,306	10,065	18,101	9,890	34,195
管理活動コスト	報告書作成費用、EMSの運用費、環境測定費用等		48,790		23,874		49,283
研究開発コスト	RoHS&WEEE対応等の研究開発費	90,364	7,286	79,714	6,754	116,430	11,438
社会活動コスト	環境に特化した工場見学等への対応	131,964	7,618	6,550	6,104	2,980	6,793
環境損傷対応コスト	当年度もありませんでした		0		0		0
計		283,475	210,329	117,711	154,571	213,042	196,126
投資額と費用の総計			493,804		272,282		409,168

投資額 213 百万円、費用額 196 百万円となりました。カワイグループ設備投資総額(1,732 百万円)に占める環境への投資割合は 12.3%、研究開発費総額(866 百万円)における環境研究開発コスト(128 百万円)の割合は 14.8%でした。

また、保全コストの総計は 409 百万円で前年に比べ 137 百万円増加しました。 昨年に比べ素材加工事業等の拡大による設備投資額の増加等が要因です。

環境保全効果

効果量は前年補正值と比較しています。環境保全効果は負荷発生量の防止や抑制代替品への転換といった活動を項目ごとに集計したものです。2005 年度は残念ながらエネルギー投入量、化学物質取扱量がやや増加しました。一部の事業所にて業容の拡大があり A 重油量、塗料の使用量等が増大しました。サーマルリサイクル燃料としての木屑がダイオキシン対策等によるボイラーの廃止に伴い廃棄物化したため、その量が増えています。廃棄物処理量 2,032 トンの内木屑は 1,210 トンあり、木屑の占める割合は 59.5%でした。またこの木屑は業者に委託し 100% 再資源化しています。実質経済効果は右表のとおりです。エネルギー料金、廃棄物処理費ともに増加致しました。2006 年度はインフラの整備等により削減を目指します。

削減効果

	単位	2004	04補正值	2005	増減量
INPUT					
エネルギー投入量	テラジュール	232	227	255	28
水資源投入量	千m ³	227	222	224	2
化学物質取扱量	ton	168	164	195	31
OUTPUT					
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	14,276	13,948	15,534	1,586
製造段階	ton-CO ₂	13,547	13,235	14,918	1,683
流通段階	ton-CO ₂	729	712	616	-96
廃棄物処理量	ton	2,187	2137	2,032	-105

04補正值=2004年度負荷×2005年度売上高/2004年度売上高

実質経済効果

内 容	単位	2003	2004	2005	増減量
リサイクル売上高	千円	259,490	223,110	130,494	-92,616
エネルギー料金	千円	214,364	225,786	247,836	22,050
購入電力	千円	163,400	173,109	188,129	15,020
化石燃料	千円	38,121	41,189	47,420	6,231
用水料金	千円	12,843	11,488	12,287	799
廃棄物処理費	千円	46,627	54,514	60,706	6,192

*1 上・下流コスト及びリサイクル売上高の集計に変更があります。事業を独立会社から本体内へ組み入れたため会計方法に変更があります。

事業活動に伴う環境配慮

グリーン調達 の状況及びその推進方策

グリーン調達

カワイでは調達・購入にあたり地球環境委員会環境方針に基づき、必要な資源の調達・購入に際しては、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入する『グリーン調達』にグループ全体で積極的に取り組んでいます。グリーン購入法やグリーン購入ネットワーク (GPN) の基本原則に準じグリーン調達を推進し、環境負荷を総合的に低減し、地球環境の保全と循環型社会構築に積極的かつ継続的に貢献するよう活動しています。

調達基準の共通事項を次のように定めています。

- ライフサイクルにおける環境配慮設計がされていること。
下記の環境に配慮した取組がなされていること
- ・環境汚染物質への配慮 / 省資源 / 省エネルギー
 - ・天然資源への配慮 / 長期使用性 / リユース可能性
 - ・リサイクル可能性 / 再生材料等の利用
 - ・処理処分の容易性

またサプライヤー選定時の配慮事項も次のよう定め購買部門でお取引先に対し対応をお願いしています。

- ・環境マネジメントシステムを構築し運用していること
- ・省資源、省エネ、化学物質管理、グリーン購入等への取組
- ・梱包材についても環境配慮していること
- ・環境情報を積極的に公開していること

木材調達

ピアノの心臓とも言われる響板には厳選されたアラスカのスプルースが使われます。樹齢 150 ～ 400 年、高さが 60m にも達する針葉樹の大木です。ピアノの響板には地上 6 ～ 20m の部分で木目がまっすぐかつ「ふし」のない所しか使えません。このような貴重な森林資源の保護を念頭に、企業としてグリーン調達に取り組んでいます。

木材調達ガイドライン

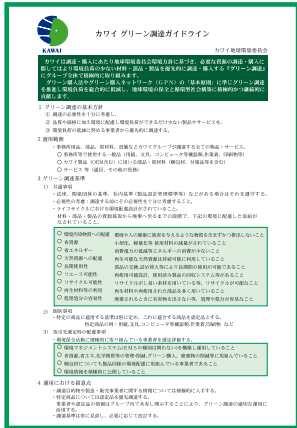
このたび持続可能な資源である木材の調達におけるカワイのポリシーを明文化致しました。

基本理念

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する、木材のグリーン調達を推進する。

基本方針

1. カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
2. カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や順法に配慮する。
3. カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
4. カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
5. カワイは、森林認証林産物を優先して調達する。



グリーン調達の基本方針や適用範囲、調達基準、サプライヤーに対する配慮事項などを定めています。
またこのガイドラインに基づいて文具類等の調達ガイドラインも別に策定されています。



URL http://www.kawai.co.jp/kankyo/pdf/guideline/kg_20040130.pdf



アラスカのスプルース
樹齢 250 ～ 260 年



カワイでは地球環境委員会環境方針を定め、環境目標の一つに「グリーン調達」を掲げています。
より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達するよう2004年1月に「カワイグリーン調達ガイドライン」を制定しグループ全体で積極的に取組んでまいりました。
ピアノ等楽器の製造において木材は重要な原材料であることも認識しています。持続可能な資源である木材の調達におけるカワイのポリシーを2006年6月 明文化致しました。



カワイ 木材調達ガイドライン

カワイ地球環境委員会

基本理念

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する。木材のグリーン調達を推進する。

基本方針

1. カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
2. カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や順法に配慮する。
3. カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
4. カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
5. カワイは、森林認証林産物を優先して調達する。



http://www.kawai.co.jp/kankyo/pdf/guideline/kw_20060629.pdf

事業活動に伴う環境配慮

化学物質に関する環境配慮

環境汚染物質への配慮

カワイでは地球環境に有害な化学物質を使わない・出さないようにするために、化学物質の管理に留意しています。特に EU の RoHS 指令にかかわる 6 物質については、2006 年 7 月以降に EU 域内で発売する製品に含有してはならないという指令に対しワーキンググループを発足させ、重点的に取組んできました。

2006 年 4 月からの EU 向け製品は RoHS 対応品となりましたが、国内向けや米国向けについては一部含有している製品があります。

WEEE 指令への対応については、例えばドイツでは登録機関 EAR に対し生産者登録を完了、リサイクル業者の選定と契約も完了しています。2005 年 7 月生産品からシンボルマークを貼付することで対応し、現在は銘板上に表記しています。



RoHS 指令

2006 年 7 月から EU 加盟国では電気電子製品等へ鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、臭素系難燃剤の使用が制限されています。

WEEE 指令

EU で公布された使用済み電気電子機器のリサイクルに関する指令 2005 年 8 月に発効

塗装事業における環境配慮

塗装事業の (株)カワイハイパーウッド中郡工場は市街区域に位置するため付近住民とのコミュニケーションを大事にしています。特に騒音には留意しており集塵機については防音壁で装置を囲ったり、防音塗料により騒音・振動の伝播対策をし、迷惑をかけないようにしています。

また、中塗り工程を見直すなど塗装方法を改善し塗料の削減や悪臭対策を実施。同時に水洗ブース用水処理方式も変更致しました。

工場では多くの水洗ブースを使用していますが、その用水は単独で密閉処理していました。塗装設備の更新に伴い用水を合併循環型方式に変更したことにより悪臭対策に加え、廃棄物の大幅削減も図れました。



化学物質への適正管理

カワイでは PRTR 法に基づき各サイト毎に PRTR 法対象物質の排出・移動量を算出し、報告しています。2005 年度は前年度に比べ取扱量で 27ton、排出量で 9.2ton 増加となりました。中郡サイトの業容拡大に起因しています。今後も対象物質を含まない塗料への代替、塗装方法の改善など化学物質の排出を抑える努力を続けます。

大気への排出は 24.1% でその大部分は塗料成分のトルエンが占めています。廃棄物としての移動量は 6.4% でした。
又回収・再使用されたものが 32.0% あります。

PRTR対象物質結果 (2005年度 単位: [ton])

第1種指定化学物質		取扱量		排出量	移動量	再資源
No.		2004	2005	大気	廃棄物	
63	キシレン	10.1	14.3	14.3		
	舞阪	1.46	1.50	1.50		
	竜洋	4.29	4.63	4.63		
	中郡	4.30	8.15	8.15		
145	ジクロロメタン	2.0	0.0			
177	スチレン	75.7	*86.0	2.5	10.4	
	舞阪	35.36	30.00	0.83	2.81	
	竜洋	12.01	12.96	0.33	1.20	
	中郡	28.31	42.99	1.30	6.40	
200	テトラクロロエチレン	54.6	65.5	** 3.3		**62.2
	浜松	27.94	26.50	1.33		25.18
	松本	26.70	39.00	1.95		37.05
227	トルエン	25.2	28.9	26.9	2.0	
	舞阪	3.37	2.32	2.20	0.12	
	竜洋	17.44	19.00	18.00	1.00	
	中郡	4.40	7.55	6.72	0.83	
	合計	167.6	194.6	46.9	12.4	62.2
			100.0%	24.1%	6.4%	32.0%

* 大部分のスチレンはモノマーからポリマーに変わっています。
** PRTR届出値と異なり推定値が記載されています。

金属事業における環境配慮

金属事業においては
大気中の水分や塩分が大敵です。そのために
工場では外気の侵入を防ぐための塩害対策設備を設置しています。
(カワイ精密金属(株) 浜松工場)



また金属の洗浄に、かつてはトリクロロエタンを使用していましたがオゾン層破壊物質対策により 94 年にトリクロロエタンを全廃致しました。しかしながら既存洗浄装置の継続使用のため塩素系有機溶剤であるテトラクロロエチレンを余儀なく用いておりました。代替洗浄技術を検討してまいりましたがその目途もつき近々の内にテトラクロロエチレンの使用を廃止できることになります。



事業活動に伴う環境配慮

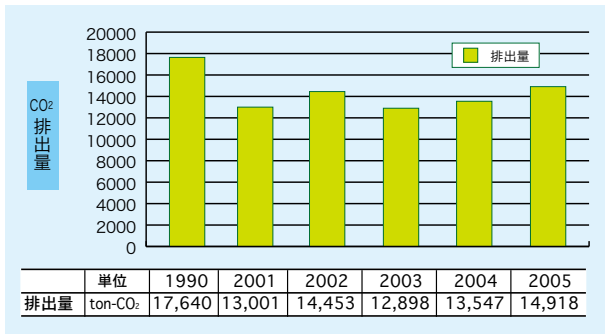
温暖化対策

地球温暖化防止への取組

カワイでは地球温暖化対策を環境経営の重点項目と位置付け、工場や事務所のエネルギー使用によるCO₂の排出や物流によるCO₂の排出削減を目的・目標に掲げ活動しています。

当年度は目的を2006年度までに15%削減する計画の2年度で10%の削減を目標に活動しましたが、一部の事業所の業容拡大や猛暑などにより結果到らず16%、1,371 ton-CO₂の排出増となりました。

しかしながら京都議定書による基準年の1990年度は17,640トンを出していたので当年度は1990年度に対し15.4%の削減となっています。議定書に定めた6%削減については大幅に達成していることになります。



電気量におけるCO₂算出係数は、0.555kg-CO₂/kWhを用いています。

環境省の「ライトダウンキャンペーン」に参加

「ブラックイルミネーション2005」にカワイはネオンサインの消灯で参加しました。

浜松駅前ビルカワイピアノネオン

舞阪工場屋上ネオン

新居工場屋上ネオン

2005.6.18～21の4日間で400kWhの消費電力の削減並びにCO₂削減に協力できました。

2006年も同様に参加致しました。

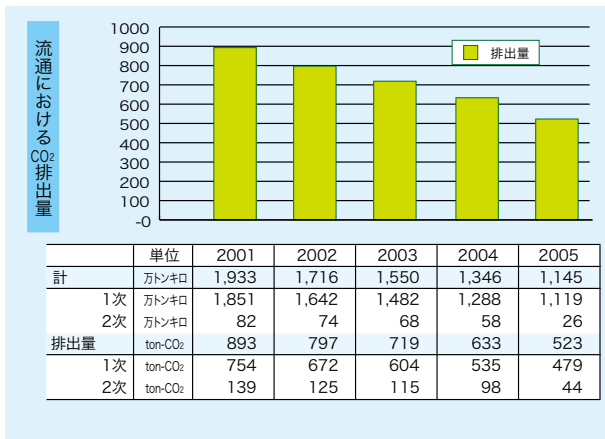


点灯時と消灯時の浜松駅前の状況

流通における温暖化対策

2005年度の国内輸送量は1,145万トンキロ(内モーダルシフトによる列車輸送は688万トンキロ)で前年比15%の削減となりました。この要因は効果的な積載方法の実施やコンテナ積み込みにおける梱包箱サイズの適正化などがあります。

CO₂排出量に換算しますと523 ton-CO₂で、前年比110ton-CO₂の削減が図れました。



輸出梱包



輸送手段は大型トラックが主体ですが、600kmを超える長距離輸送には、モーダルシフトによる列車コンテナや効果的なバン積みによる輸送(主に輸出品の国内搬送)も活用し負荷の低減を図っています。

また「物流ルートの見直し」等による輸送効率を高める施策や梱包材再利用等の「物流費の削減」を、今後も続けていきます。



国内出荷は梱包材を再利用

グランドピアノには再使用できるふとんを使用しています。



事業活動に伴う環境配慮

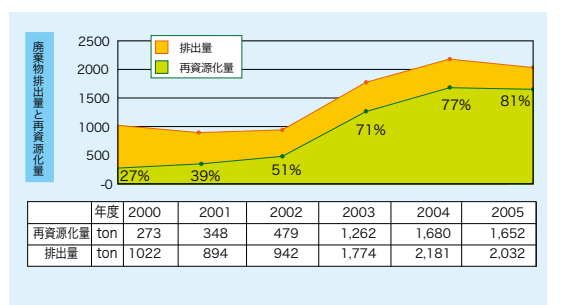
廃棄・再資源化

廃棄物削減と再資源化

廃棄物の削減と徹底した分別回収による再資源化を図ることが重要な使命と認識し活動しています。

2003年度から大気汚染の防止、ダイオキシン対策特別措置法の順守を目的に木屑ボイラー・焼却炉の廃止があり今まで燃料としてサーマルリサイクルされていた木屑や木粉が廃棄物扱いとなったため廃棄物排出量が大幅に増加しました。

しかしながら企業努力により、木屑等は全て再資源化(製紙原料、ボード原料、燃料用 他)しておりその他を含めた再資源化比率も81%と前年値の77%を大幅に越えることができました。



容器包装リサイクル法

2000年4月に容器包装リサイクル法が施行され、当社においては紙製及びプラスチック製の容器並びに包装にリサイクル義務が課せられました。

(財)日本容器包装リサイクル協会と毎年リサイクル委託契約を結び再商品化の義務を果たしています。

2005年度の再商品化義務量は2,853 kg 委託金額は241千円でした。当社の主製品である鍵盤楽器はお客様先まで搬送し、据付けことが殆んどのため再商品化の義務を負う容器や包装材はごくわずかであり、表に掲げた容器・包装材の多くは直営店で用いるショッピング袋やポリ袋などです。

前年度から容器の軽量化や今までポリ製だけであったショップ用袋に紙製を新設するなどの施策により量の削減化を図っています。

改善例			
軽量化	ショップ用ポリ袋	21.0 g/枚	→ 16.0 g/枚
新設	ショップ用 紙袋	→ 11.0 g/枚	



容器包装リサイクル法における識別表示の例

リサイクル・リユース

循環型事業として(株)ピアノリサイクルを98年に設置し、現在は販売推進室リサイクルセンターが、お客様のニーズにこたえています。当社では熟練の技術者の手で古いピアノをリユースできるようにしています。塗装から組み立て、調律までと見た目はもちろんメカニックの修理も施して、古いピアノがまるで新品のように生まれかわります。

今では弾く人もいなくなった思い出のピアノ、使わなくなったピアノを思い出とともに再生し、お客様に満足していただいています。

連絡先：リサイクルセンター 0120-319-648

当社の旧ピアノRX-Aを
甦らせご満足のお客様



2005年度再生率100% 達成率104%
2006年度目標
解体ピアノ部品活用
生地艶出し仕上の塗色変更
顧客からの声等の情報活用
検査表に基づく検査の実施

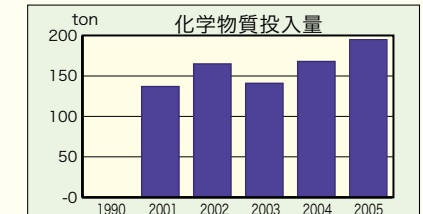
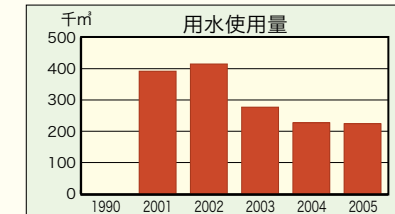
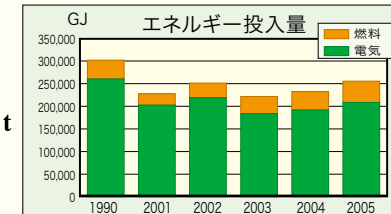
カワイグループは、企業活動が環境に及ぼす影響を認識しています。
事業が環境に与える負荷を数値で把握することが活動の第一歩。

環境パフォーマンス

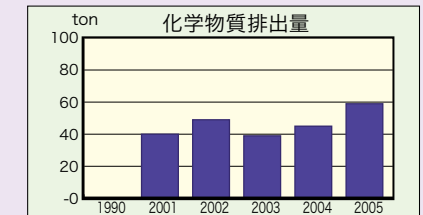
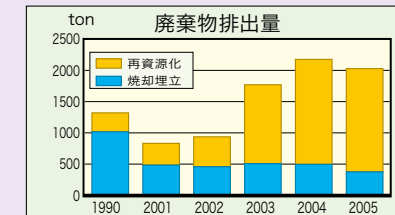
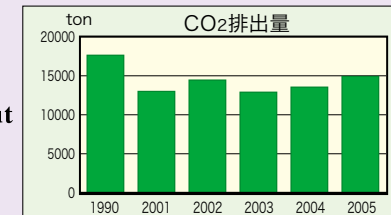
カワイでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を把握し、そのおよぼす影響を削減するために開発・設計・調達・製造から輸送、さらにお客様が製品を使用・リサイクル・廃棄に至るまでの各段階でどれくらいの資源・エネルギーを使用しているか、またどのような環境負荷が発生しているかについてデータ集計をしています。
今後も把握の対象を広げ環境負荷の低減に取り組みます。

※ 1 当年度が初年度であり、算出に一部原単位を用いています。楽器事業と金属事業分を開示しました。
※ 2 購入電力からのCO₂排出量算出係数は0.555kg-CO₂/kWhを用いています。
※ 3 各事業場毎の排出量の集計でなく、使用量から推定しています。

Input



Output



Input

原材料 ※1		
	楽器	金属
木材(千m³)		
製材品	12	
合板ボード	12.5	
金属(ton)		
鉄	3,051	2,233
銅	95	9,175
その他	319	
プラスチック(ton)	290	

エネルギー (GJ)		
	05年	04年
総 計	255,456	232,532
購入電力	208,405	191,773
A重油	45,160	38,932
LPG	1,333	1,311
灯油	558	516
化学物質 (ton)		
取引量	195	168

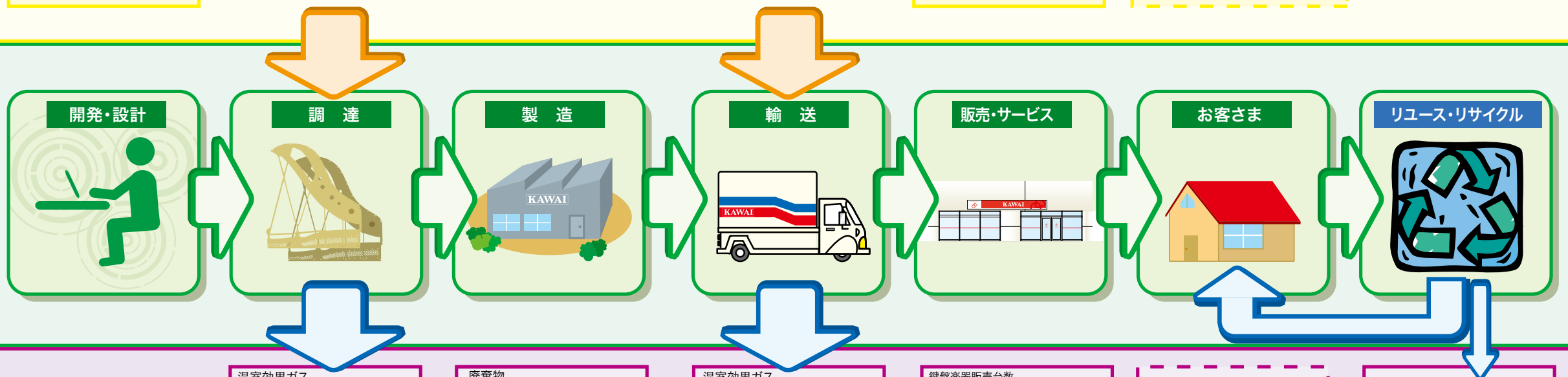
水 (千m³)		
	05年	04年
総 計	224	227
井水(地下水)	135	126
水道水	38	35
工業用水	51	66

燃料 (GJ)		
	05年	04年
ガソリン	890	740
軽油	4,301	4,341

容器包装材料 (kg)		
	05年	04年
紙製容器・包装	12,572	13,406
プラ容器・包装	10,554	9,319

エネルギー GJ	
電気	0.0
ピアノの演奏は人力のため使用段階でのエネルギーは0と評価しました。又電子ピアノ・オルガンについては演奏時間等の設定が困難なため対象から外しました。	

KAWAI



Output

温室効果ガス (ton-CO ₂)		
	05年	04年
CO ₂ ※2	14,918	13,547
排水 (千m³)		
排水 ※3	179	222
化学物質 (ton)		
排出量	47	38
移動量	12	7

廃棄物 (ton)		
	05年	04年
総排出量	2,032	2,187
埋立処理量	376	495
再資源化量	1,652	1,688
一般廃棄物	4	4
有価物(ton)		
発生量(金属屑)	2,587	

温室効果ガス (ton-CO ₂)		
	05年	04年
CO ₂	523	633

鍵盤楽器販売台数 (台)		
	05年	04年
ピアノ	42,809	43,550
電子ピアノ	45,175	38,576
電子オルガン	4,489	4,667

温室効果ガス		
CO ₂	0.0ton	
アコースティックピアノにおける使用段階での排出は0と推定しました。電子楽器についてはINPUT同様の考えから対象から外しました。		
容器包装 (kg)		
再商品化義務量	2,853	5,105
(排出量)	7,582	18,942

廃棄へ

サイトで取り組んでいる環境パフォーマンスの実績経過を報告します

環境パフォーマンス サイトでの取組例

パフォーマンスの向上

カワイ環境方針でも謳いましたように環境負荷の低減のみでなく、有益な側面を発掘し推進することを目標に設定し各サイトではパフォーマンスの向上を図っています。

カワイグループの舞阪工場における環境マネジメント中期計画書の目的とその経過について報告します。
当年度は中期計画の中間年で、是正処置や予防処置による目的・目標の修正がありました。
工場独自の文言・ルールがありますので意味不明の箇所があるかとは思いますが、ご了承願います。

舞阪工場 環境マネジメント中期計画書

環境方針	環境側面	目的	推進部門	2005 目標	2004実績	2005実績	2006目的
				具体的手段	(達成率)	(達成率)	
環境配慮設計	製品	UP鍵盤鉛廃止器種の比率向上 比率を40%に拡大	技術	比率を30%に拡大 治工具類の整備施策により輸出器種を中心に計47機種まで拡大 GP器種への拡大	仕様確認 9機種	仕様確認 61機種 (127%)	40%
	防音ルーム	防音ルームの設計・施行に伴う 廃棄物削減 削減率20%	音響	2004年度の5%削減 設計の見直し パネルサイズの共通化	28%	35% (119%)	20% 40% (上方修正)
製品リユース	使用済みピアノ	使用済みピアノの再生促進 再生率 97% 顧客満足度の向上等内容の 充実を図る	リサイクル	再生率 96% 解体ピアノ部品の活用 生地艶出し仕上の塗色変更 顧客からの声等情報の活用 検査表に基づく検査の実施	100%	100%	97%
グリーン調達	購買	「カワイグリーン調達基準」に 沿った事業所との取引 40% 木材調達ガイドライン維持 植林木活用推進	購買	取引率30% 現状調査及び啓蒙活動 担当者教育 取引先との情報交換 EMS取得支援活動	28.6% (191%)	31% (103%) (是正処置)	40%
化学物質低減	塗料	環境対応型塗料への転換促進 転換対象塗料 7種類	塗装	2種類を転換 塗料メーカーからの情報収集 技術部との打合せ 溶剤系で試行、ライン化	計3種類 (100%)	品質問題 による 変更 (是正処置)	計5種類
廃棄物の抑制と3R	落し材	落し材の削減及び有効活用 総合歩留の向上 60% 再利用比率向上 30%	木工	歩留向上 55%、再利用率向上 23% 発生状況調査 出庫寸法の見直し 再生品への分別の拡大	58%,25% (105,108%)	69%,28% (119,104%)	60%,30%
		落し材の有効活用 廃棄量を全体で40%削減	部品	39%削減 出庫寸法の見直し 再商品化(造形チップ) 加工不良の削減	39% (114%)	43% (110%)	40% 42% (上方修正)
	廃棄物	海外梱包ダンボールの有効利用 再利用等使用量の5%削減 海外梱包材の有効活用による 費用削減 2006年度目標	包装	2%削減 再利用化する梱包箱の特定 緩衝材の再利用検討・試行		5% (228%)	目標変更
		産業廃棄物の資源化率向上 資源化率を87%に向上	総括	資源化率86% 各方面からの情報収集 廃プラの資源化検討 フェルト屑の資源化	85.1% (100%)	86.8% (101%)	87% 88% (上方修正)
廃棄物抑制	海外からの調達部材	海外調達部材の品質向上 不良率の30%削減	品質保証	35%削減 現状把握 海外業者への環境啓蒙	9.4% (94%)	43% (123%)	30% 38% (上方修正)
	製品	検査直し件数の削減による 環境負荷の低減 直し件数 10%削減	仕上	7%削減 現状把握、原因追求、対策実施 調整不良削減	6% (120%)	7.7% (110%)	10%
温暖化防止	軽油	業務用トラックからの環境負荷 の低減 燃料総使用量の削減 前年実績の5%	流通	5%削減 エコドライブセルフチェック 車両別燃料表の掲示 燃費ボーダーライン設定 コンテナ輸送率アップ モーダルシフト推進	11.9% (339%)	倉庫見直し等による軽油使用量増加 (是正処置)	5.0% 2005年度の3%削減 (下方修正)

* 2003年の実績を基準として2006年を目的年としています。
具体的手段につきましては一部を紹介しました。

環境法順守状況を自主管理基準値、測定結果とあわせて報告します

環境パフォーマンス 法規制の順守

環境法規制 順守状況

カワイグループに関する主な環境法規制を下表に示します。順法への対応において ISO マネジメントシステムを採用している事業場については順守評価の結果を内部監査にて確認しています。その他の事業場（カワイ精密金属、カワイハイパーウッド）の順守確認は環境推進室が実施しています。また環境に関する法規制の逸脱・事故等に関する結果は P8 に記載したとおり、ありませんでした。また関係当局からの指摘も過去 5 年間ありません。

	環境法令	法の要求事項	順守状況	備考
大気	大気汚染防止法 静岡県条例	ばい煙発生施設の設置届出 粉じん特定施設の設置届出	ボイラー等の設置届出済み 吹付塗装設備等の設置届出済み	
水質	水質汚濁防止法	排水基準値の適用 特定工場の届出 排水基準値の適用 水質検査/保守点検/定期検査	自主管理基準値以下 *1 該当工場にて届出済み 自主管理基準値以下 *2 基準値以下/実施済み	
騒音	騒音規制法	特定施設の設置届出 規制基準値の適用	空気圧縮機等の設置届出済み 自主管理基準値以下 *3	
振動	振動規制法	特定施設の設置届出 規制基準値の適用	空気圧縮機等の設置届出済み 自主管理基準値以下 *4	
悪臭	悪臭防止法	規制基準値の適用	自主管理基準値以下	
組織等	特定工場における公害防止組織 の整備に関する法律	公害防止管理者の選任/届出	該当工場にて届出済み	
工場立地法	工場立地法	特定工場の新設・変更の届出	該当工場にて届出済み	
産業廃棄物・化学物質	産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ポリ塩化ビフェニル(PCB)の適正な 処理の促進に関する特別措置法 特定化学物質の環境への排出量の把握 及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR法)	産業廃棄物の運搬と処分資格業者への委託 産業廃棄物管理票 PCB廃棄物の確実かつ適正な処理の確保 特定化学物質の管理 排出量の把握及び届出	委託業者との契約の締結 マニフェストの管理・報告書 PCB廃棄物の保管状況の報告 該当工場にて実施中 トルエン等の排出・移動量を報告済み	
リサイクル	容器包装に係る分別収集及び再商品化 の促進等に関する法律 (容器包装リサイクル法) 建設工事に係る資材の再資源化等 に関する法律 (建設リサイクル法)	再商品化義務量の把握 識別表示の義務化 分別解体と再資源化等の義務付け	紙製及びプラスチック製の 容器包装量の把握 識別マークの表示 該当工場にて実施	P12 P14
土壌	土壌汚染対策法	特定有害化学物質を使用する特定施設が ある工場に対し、施設廃止時に土壌汚染 調査を実施	義務はないが自主的に土壌汚染調査 を実施 *5	

自主管理基準値

	法令値 協定値 等	自主管理基準値			測定値		
		舞阪工場	竜洋工場	メルヘン	舞阪工場	竜洋工場	メルヘン
*1 工場排水							
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	6.1～8.2	6.0～8.4	6月15日 7.4	5月24日 7.9	7月14日 6.8
SS	30ppm以下	16ppm以下	27ppm以下	160ppm以下	5.0	5.0	5.0
BOD	20ppm以下	13ppm以下	18ppm以下	130ppm以下	1.0	2.0	1.0
*2 下水道					6月15日 20℃		
温度	45℃未満	35℃未満			7.6		
pH	5～9	5.2～8.8			2.5		
n-ヘキサン	35ppm以下	30ppm以下			41.7		
沃素消費量	220ppm未満	110ppm未満					
*3 境界線騒音					6月15日 59	6月13日 57	6月16日 62
昼	70 dB 等	69	63	64	63		53
夜・早朝	65 dB 等	64	59	55			
深夜	60 dB 等	59	54	55			
*4 境界線振動					6月9日 44	8月8日 42	
昼	70 dB 等	65	63				



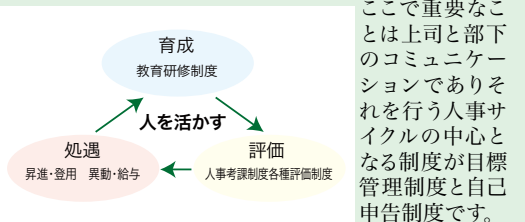
*5

社員を大切にし、明るい企業をめざします。

組織で働く全ての人との関係

人事制度

カワイは生産から販売まで幅広い業務を行っています。そこで働く従業員一人一人が「やりがい」をもって、「能力」を発揮できるシステムを創り上げる事が「人事」の役割と考えています。そのためには、社員の適性能力・業務成果を、
○公正に評価し（評価制度：人事考課など）
○適正に処遇し（処遇制度：給与・異動など）
○的確に育成する（教育研修制度）
ことを基本にしています。そして、人事制度を個々の制度として捉えず、「人事」の3つの機能を連動させる事により、人事サイクルとして円滑に機能する職場環境を目指しています。



ここで重要なことは上司と部下のコミュニケーションでありそれを行う人事サイクルの中心となる制度が目標管理制度と自己申告制度です。

メンタルヘルス

カワイでは、厚生労働省が策定した「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」に基づき、4つのケア（「セルフケア」「ラインによるケア」「事業場内産業保健スタッフによるケア」「事業場外資源によるケア」）を継続的かつ計画的に、実施しています。
○社内イントラネットを使ったメンタルヘルス情報の提供
○メンタルヘルスセミナー
○産業医・保健師による個別相談などを実施して、全社レベルでメンタルヘルス対策に取り組んでいます。



目標管理制度・自己申告制度

従業員の活力を最大限に発揮してもらうため、会社は明確な方針を示し全員のベクトルを合わせることが必要です。目標管理制度は半年毎に業務に関する話し合いを行い、具体的な目標をお互い確認しあう場です。

また自己申告制度とは現在担当している業務に対して従業員の希望や勤務地などについてコミュニケーションし、一人ひとりのキャリア開発に役立てています。現在この制度をリニューアルした新人事制度の確立にむけて検討しています。

各種休暇制度

カワイには年次有給休暇のほか各種の休暇制度があります。又育児や介護などの休業制度も充実しています。

休暇の種類	休暇の内容
リフレッシュ休暇	勤続年毎に連続5日の休暇が付与されます
メモリアル休暇	従業員の誕生日に付与される特別休暇
HP休暇	ヘルスプロモーション(健康増進)のために年1回付与される特別休暇。任意の日に取得できます。
積立休暇	時効消滅する年次有給休暇の2分の1が付与され、年々累積加算されます。(最高50日)ボランティア活動や自己啓発、介護等に使用します。

労働安全衛生

カワイでは「安全で快適な職場環境の形成」と「健康保持増進活動の推進」を原点として次のような活動に取り組んでいます。

1. 安全で快適な職場環境の形成

- 1) 労働災害発生時に必ず労使で現認し、協力して再発防止対策に取り組んでいます。
- 2) ヒヤリハットを抽出し、KYT(危険予知訓練)等を通じて危険を先取りし、危険ゼロを目指します。
- 3) 労使での職場パトロールにより不安全・不衛生状態をなくします。

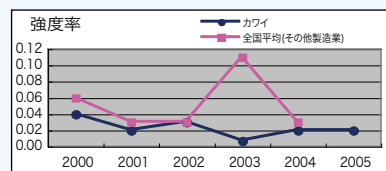
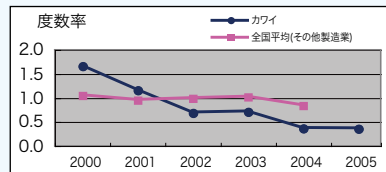
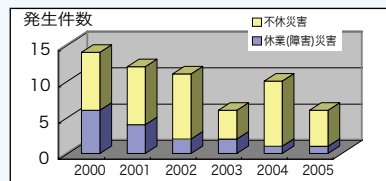
2. 健康保持増進活動の推進

- 健康保険組合と体育事業部が連携し健康保持増進活動の推進に取り組んでいます。また各種の補助金を支給しています。
- 1) 健康管理・健康づくりに関する情報提供、奨励費の支給
歩け歩け運動：カワイヘルシーウォーキング 1500円補助
事業所単位にて実施する健康づくり事業への補助 2000円
 - 2) 定期健康診断・生活習慣病検診後のフォローアップ
人間ドック等への補助 30000円
主婦健康診断(被扶養者も対象)への補助 6000円
 - 3) 毎月の健康相談

2005 年度労働災害統計

2005 年度の発生件数は 6 件で、前年より 4 件減少しました。うち 1 件が障害災害でした。度数率、強度率ともに同業のその他製造業の全国平均を大幅に下回っています。

*度数率：労働時間 100 万時間あたりに発生する死傷者数
*強度率：労働時間 1000 時間あたりの災害によって失われる労働損失日数



お客様の満足を第一に商品・サービスを提供します

お客様との関係

品質に対する取組

◎カワイ QSS

お客様との相談窓口をカワイ QSS(Quick Service Station)と名づけ、誠実な対応と迅速な対応を行うべく1971 年よりその組織を発足させ活動しています。カワイ QSS 組織は CS 推進室に本部を置き各支社に支部を配置しカワイのお客様相談窓口としての役割を果たしています。

お客様からの苦情対応、相談の受付、関係行政機関、各種消費者団体との対応や、PL 法など消費者関連法規に申し出ることにないように活動しています。

連絡先：お客様相談室 TEL:053-457-1311

◎調律サービス室

お客様のピアノの主治医“調律師”の技術集団「ピアノは生きています」というと驚かれるでしょうが、ピアノには木材・羊毛・皮革など多くの天然素材が使われています。これらの材料はとても敏感で、温度や湿度の影響をまともに受けてしまうのです。またピアノの大部分を占める木材は常に呼吸をしている、まさに“生命体”なのです。そしてピアノほどデリケートなメカニズムを持つ楽器は他に無いとまで言われています。そこで私達が健康管理をするようにピアノにも“調律”という名のメディカルチェックが必要なのです。

カワイの調律師たちは「カワイテクニカルセンター」での厳しい訓練を受けた技術者で、ピアノの主治医として、ピアノを常にベストコンディションに保つためのケアをしています。

●ピアノの部品は摩耗・消耗・劣化をします。また摩擦部分での静電気のいたずらも見逃せません。

次のような症状があなたのピアノにあったら下記までご連絡下さい。

- 鍵盤(タッチ)が重くなった気がする
- ピアノを弾いていて内部から雑音が出る
- 音量のコントロールがうまく出来なくなった
- 一度しか弾かないのに2度打ちをすることがある
- トリルで音が抜けたり、出来なかったりする
- 以前にくらべ音量・音色が変わった気がする



様々な気になる症状があらわれたならば一度調律師に見てもらいましょう。簡単な調整、整調で快適になる場合もありますし、部品の交換等、早期に修理をした方が良い場合があります。ピアノの部品は複雑に連動しているため別の関連する部品まで傷める事になりかねません。

連絡先：調律サービス室 TEL:053-457-1253

携帯やパソコンから音楽用語を無料で検索できます

カワイが開設している「意美音(イミオン)」はインターネットに接続可能な携帯電話やパソコンからいつでも利用できる、便利な音楽辞書サイトです。キーワードを入力するだけで、音楽の基礎用語から独特の専門用語まで検索でき、しかもその分野は音楽用語、音楽史、理論・・・など多岐にわたります。また音楽用語の検索のほか、収録用語をもとにした三択クイズも楽しめ、全国ランキングにも登録されています。

ホームページの充実

◎カワイショップオンライン

カワイショップオンラインは、あなたの音楽ライフを多面的に応援するサイトです。楽器に夢中の人、いまからの人、リターンの人、みんなの希望や悩みにお応えします。音楽とともっともっと気持ちよく暮らしていただくために。ピアノ・電子ピアノをはじめ、楽器・関連ソフト・楽器玩具・防音室などあなたの音楽心を刺激する商品がいっぱい。ネット限定の掘出物や特典も盛りだくさん。もちろんネットで即購入。



<http://www.kawaishop.jp/>

◎防音室(ナサール)のホームページがぐ〜んと機能 UP



<http://www.kawai-os.co.jp/nasal/>

気持ちよくピアノを弾くには防音だけでなく自然な反響音が重要です。詳しくは、まずホームページをご覧ください。人にやさしい音環境「ナサール」音を外にももらさない防音空間から、より良い音環境を楽しむ“創快空間”へ「ナサール」は音を知り尽くしたカワイならではの高度な音響技術から生まれた新時代の防音・音響システムルームです。優れた遮音性能と音響性能そして卓越した木工技術を生かした内装・インテリアにより、理想の音環境を実現しました。簡単組立て低コストの「ユニットタイプ」から自由設計の「オーダータイプ」まで幅広いニーズに対応しています。

無料診断 無料見積 実施中
お気軽にお問合せください。全国無料のフリーダイヤル音の専門家が責任をもってお応えします。安心しておまかせください。

連絡先：株式会社カワイ音響システム TEL:0120-010-994



音楽文化の担い手として・・・

お客様との関係 社会貢献活動

さらに広く、より深く音楽文化を醸成するために、カワイは楽器メーカーとして優れたハードづくりを追求するとともに音楽文化の育成やレベルアップといったソフトに関する活動を、長年続けています。音楽から生まれる感動をさらに多くの人へ、より深く伝えたい。・・・カワイの熱き想いは、さまざまな音楽シーンで着実に実を結んでいます。

◎文化・芸術への貢献

カワイ音楽振興会 カワイコンサート 日本ショパン協会 日本フーゴ・ヴォルフ協会
名古屋フィルハーモニー交響楽団 日本シマノフスキー協会 など

●カワイ音楽振興会

日本の音楽文化の普及と向上を目指して1963年に設立。海外の著名な演奏家、教育指導者を数多く招聘し、リサイタルを開催するほか、公開講座、個人レッスン、講演会など多彩な催しを企画実施しています。

●カワイコンサート

日本中のより多くの方々によりよい生の音楽を。このポリシーのもと、1971年からスタートした「カワイコンサート」は既に全国各地で2千数百回以上におよぶ公演を実施しました。国際的なピアニストから新進気鋭の若手まで多彩な演奏家を招き音楽のすばらしさを広めています。又新人にとっては一流ピアニストへの登竜門として絶好の舞台となっています。

●日本ショパン協会への支援

ポーランドのショパン協会との交流の元に設立された日本ショパン協会の活動を多角的に支援。音楽交流、ショパン国際ピアノコンクールへの審査員派遣、参加者オーデション等の活動を行っています。また年間最も優れたショパン作品の演奏をしたピアニストに対し日本ショパン協会賞を送っています。

●日本フーゴ・ヴォルフ協会への支援

歌曲の作曲家フーゴ・ヴォルフ。彼の作品をより多くの音楽ファンに知ってもらうために設立された協会をバックアップ、例会、研究会活動のほかヴォルフに関する資料・楽譜の収集、公開などに積極的に取り組んでいます。



カワイは長年にわたり名古屋フィルハーモニー交響楽団、日本シマノフスキー協会への支援活動も続けています。

連絡先：音楽教室 TEL:053-457-1322

◎教育・教室としての貢献

カワイ音楽教室 カワイこども英語教室 カワイ絵画造形教室 カワイ体育教室 カワイミュージックスクール
カワイ音楽学園 カワイピアノテクニカルセンター いきいき健康音楽 など

●カワイ音楽教室

1956年発足。全国各地に7,300余の教室があり、28万人に近い生徒が通っています。年齢やレベルに合わせて多彩なコースが設定され、音楽の基礎能力を身に付ける導入過程からプロをめざす専門過程まで系統的なレッスンが受けられます。

personality & harmony
カワイ音楽教室

<http://www.kawai.co.jp/school/music/>

personality & harmony
カワイ英語教室

<http://www.kawai.co.jp/school/english/>

personality & harmony
カワイ絵画造形教室

<http://www.kawai.co.jp/school/creation/>

●カワイミュージックスクール

平均寿命の伸張に伴い、中高年の人々の生涯学習や余暇活動に対する関心が年々高まっています。カワイでは、こうした社会ニーズに対応し、ピアノ・フルート、バイオリン、大正琴、日本唱歌など、40種以上に及ぶ大人のための音楽教室を運営しています。いずれも自分の好きな曲をその人のレベルに合った内容で受講でき、またレッスンの回数や形式が選択できるなど、個性に合ったレッスンが受けられることから、多くの受講者を集めています。



<http://www.kawai.co.jp/school/popular/>

●カワイ体育教室

1967年の開設以来「心とからだのハーモニー」をテーマに多様な体育教室を実践。2歳コース、幼児・児童コース、スポーツコース及び生涯体育の理念の基健康づくりを支援する健康コースを設置しています。

personality & harmony
カワイ体育教室

<http://www.kawai.co.jp/school/physical/>

●カワイ音楽学園

カワイ音楽教室講師として即戦力となる専門的な技術を習得し、さらには音楽教育者としての総合的資質を高めていく教育機関です。1年間集中的に総合音楽学習を行い音楽教室講師として必要な知識と技術を身に付けます。実践の場で得られた体験、思考、思想がここで学ぶ人たちの財産でありカワイ音楽学園40年の歴史となっています。

カワイ音楽学園

<http://www.kawai.co.jp/gakuen/>

●カワイピアノテクニカルセンター

昭和36年創立以来、すぐれたピアノ調律技術者を数多く組織的に育て、世に送り出してきました。一年という短期間で、しかも多くの実力あるプロのピアノ調律技術者を育てています。卒業生は国内のコンサート調律はもとより、海外のアフターサービス等に広く活躍しており、我が国の音楽文化の振興に大いに貢献しています。



カワイピアノテクニカルセンター

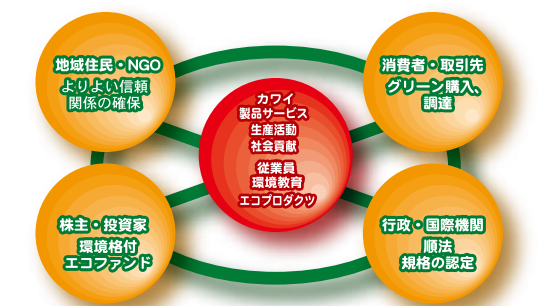
<http://www.kawai.co.jp/sc/tcenter.html>

多くの皆様方とのコミュニケーションを大事にします。より良い信頼関係の確保に努めます。

環境コミュニケーション 情報発信

情報発信

ステークホルダーの皆様へ、カワイの環境等への取り組みの内容や環境パフォーマンスの成果、環境への配慮などを広く知っていただくため、環境報告書の継続的発行やインターネットによる情報の開示等を始めとして、地域にお住まいの皆様方、NPO・NGOの方々とのより良い信頼関係の確保、双方向のコミュニケーションの拡大に努めます。



ホームページでの開示

カワイのホームページでは製品情報、会社情報等と同様トップページから「環境への取り組み」に進んでいただけます。



<http://www.kawai.co.jp/>



<http://www.kawai.co.jp/kankyo/>

2005年度グッドデザイン賞受賞

河合楽器製作所の電子ピアノ“es1 PERLA（ペルラ）”が、財団法人日本産業デザイン振興会の選ぶ「2005年度グッドデザイン賞」（Gマーク）を受賞しました。



PERLA
DIGITAL PIANO es1



連絡先：販売推進室 TEL:053-457-1317

カワイ音楽教室

河合楽器製作所は、カワイ音楽教室の開設50周年を機に、音楽のみならず体育教室、絵画造形教室、英語教室と広がりを見せている教育事業全体の理念を表現したシンボルマークを制定し、4月1日より順次、全国の教室のサイン等に統一的に使用しています。



連絡先：カワイ音楽教室 TEL:053-457-1361

環境報告書の継続的発行

カワイでは2001年より毎年、環境報告書を発行しています。2003年度からは社会性側面についても記載し多くの皆様に持続可能な社会の実現に向けたカワイの活動を知っていただくよう情報提供を続けます。



社内イントラネット環境情報

環境推進部門を始め、各サイト、関係会社などで保有する環境情報を従業員がアクセスできるカワイのイントラネット「情報ネットワーク Webly Go」にて共有しています。これにより最近の環境法規制の動向、負荷低減活動の状況などさまざまな情報を得たり、環境教育を受けたりすることができます。



園自慢フォトコンテスト

全国の幼稚園・保育園を対象に、日々の活動や園の特色を、写真を通じて応募していただく「園自慢（えんじまん）フォトコンテスト」の1回目をこの春に開催しました。



連絡先：フォトコン事務局 TEL:053-457-1312

そだちのきろく

幼稚園、保育園向け運動能力測定データ処理ソフト“そだちのきろく”を発売しました。幼児の運動能力、体型の発育発達状況を把握し、保育活動に役立てていただくことを目的に、10年前に幼児向け運動能力測定データ処理ソフトを独自開発し、測定の指導から結果の処理までを当社でサポートしてまいりましたが、かねてより園独自でデータを加工したい、迅速に結果を処理したいなどの要望があり、このたびそのプログラムソフトをCD化し一般に販売することとなりました。



連絡先：体育事業部 TEL:053-457-1284

環境コミュニケーション 地域活動への参画

環境保護活動への参加

各サイトそれぞれにおいて、地域活動へ参画しています。環境方針に即した活動を展開することにより、多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図っています。

竜洋工場

地域の学校の環境教育の一環としてなど、竜洋工場では多くの工場見学者を受け入れています。2004年度はその数は477人でしたが、今年度は、なぜか環境に特化した見学は33団体994名でした。その他の目的を含め見学者総数は6000人を超えています。

日付	団体名	人数
2005.05.01	掛川市立北中学校	41
2005.05.23	浜松単身の会	17
2005.05.24	静岡県立天竜林業高等学校	36
2005.06.17	磐周第3班教育研究会	15
//	浜松市立蛸塚中学校	51
2005.07.19	静岡県立浜松西高等学校	20
2005.07.21	静岡県立浜松城北高等学校PTA	18
2005.08.08	磐田国際交流協会	30
//	トヨタ自動車	5
//	御前崎市立第一小学校	4
2005.09.19	浜松東税務署	16
2005.09.20	カワイグループ友の会	27
2005.09.26	静岡県立小笠高等学校	43
2005.09.27	厚木市防火安全協会	30
2005.10.04	島田市立初倉南小学校	49
2005.10.11	郡山女子大附属高等学校	10
2005.11.02	マツダ工業技術短期大学	68
2005.11.04	島田市立金谷小学校	103
2005.11.09	中国 中山大学日本考察団	36
//	中国 イーチャン市共産党書記長他	20
2005.11.10	国立音楽大学附属中学校	82
2005.11.11	NHサークル日本ブロック	37
2005.11.18	石川県 川北町商工会	15
2005.11.25	岡崎地域職業訓練センター	15
2005.11.29	東京都 海外技術研修協会	34
2006.01.13	埼玉七歩会	23
2006.01.24	静岡銀行浜松営業所	7
2006.02.10	(財)日本体育施設協会	15
2006.02.22	岐阜県冷凍庫協会	17
2006.03.07	トヨタホーム・オーバル会	30
2006.03.08	愛知県 海外技術研修センター	30
2006.03.24	香川県立高松第一高等学校	35
2006.03.28	長野県飯田市議会	15
計	33団体	994



H17年9月(財)日本緑化センター主催の工場緑化全国大会において竜洋工場が緑化優良工場として会長奨励賞を受賞しました。森の中の緑の工房(緑地を含んだ環境施設面積51,112m²敷地の30.4%)と敷地内緑地の一般開放など地域との交流、貢献が評価されたものです。

舞阪工場

舞阪工場の環境方針の一節に「・・・・・・、隣接する旧東海道の松並木や浜名湖の景観に育まれた町“舞阪町”の自然環境保護に貢献します」とあります。「浜名湖クリーン作戦」が今年度は2005.6.5に実施されました。浜名湖沿岸市町村にとって6月の環境月間の定番行事として恒例化しています。



2005.4.23には「小さな親切」運動に参画しました。この運動は旧東海道松並木のクリーン作戦として、毎年展開しており、今年度も多くの有志が家族づれで参加しトラック一杯のゴミを集めました。

旧東海道松木 舞阪町指定文化財
江戸幕府が1604年に街道の両側に松や杉を植えさせたことに始まる。1712年には道の両側に1,420本の松が植えられていた。現在700mにわたって大小340本の松並木が続いている。



カワイ精密金属

平成17年度の静岡県環境森林部生活環境室による「環境対話集会(化学物質リスクコミュニケーション)」が浜松市で開催され、カワイ精密金属が協力しました。



環境コミュニケーション 地域活動への参画

メルヘン楽器

メルヘン楽器では環境方針に基づき各種の環境保全活動に積極的に参加しており地域の人々とのコミュニケーションを図っています。従前より毎月実施している地域環境活動の拡大キャンペーンとして環境月間には多くの参加者を得て工場周辺及び太田川河川敷の美化活動を実施しました。



技術者集団のメルヘン楽器では省エネ活動の一環としてソーラー外灯を自分達で設置しました。常夜灯として20Wの蛍光灯が点灯しています



本社

浜名湖クリーン作戦にカワイ音楽学園の生徒さん達が参加しました。環境授業の一環として地域貢献活動の重要性を再認識した活動でした。



カワイインドネシア

インドネシアで大きな地震がありました。従業員の中にもジョグジャ近辺の出身者が30名ほどいることから日本で義援金を募り現地会社から被災村へ赴き、食料や復興用材料を村長さんに手渡しました。

この救援活動は現地新聞にも掲載され大きな反響となっています。村人の様子や子供たちの明るさに復興も早期にできると思われます。また日本赤十字を通じて河合楽器は100万円の義援金を贈っています。



カワイハイパーウッド

ハイパーウッドは地元自治会での道路の清掃活動に毎年参加していますが、それに加え本年度はクラブ活動、ソフトボール大会に活用している天竜川の河川敷運動場のゴミ拾いを実施しました。グラウンド使用者のマナーが低下しているのか廃ペットボトルの散乱が目立ちましたが清掃後はすっきりしたグラウンドでのソフトボール大会に参加者も満足していました。



カワイの事業沿革と環境への取組の歴史を
公害防止の時代、環境保全の時代、環境経営の時代に分け記載しました

カワイグループのあゆみ

事業沿革

環境活動

- 1927 河合小市 河合楽器研究所を創立。
ピアノの製造・販売を開始
- 1929 河合楽器製作所と改称
- 1935 合名会社河合楽器製作所と改組
- 1951 株式会社河合楽器製作所と改組
- 1955 河合小市 逝去 河合 滋 社長に就任
- 1956 カワイ音楽教室を創設
- 1961 ピアノ組立工場として舞阪工場完成
- 1963 アメリカにカワイアメリカコーポレーションを設立
- 1966 カワイ音楽教室中央講師養成所
(現 カワイ音楽学園)を創設
- 1967 カワイ体育教室を創設
- 1972 カワイ保養所 あさま山荘事件
- 1976 西ドイツにカワイドイチェランドGmbH.を設立
- 1979 西ドイツにカワイヨーロッパGmbH.を設立
- 1980 金属圧延加工のカワイ精密金属㈱を設立
- 1980 グランドピアノ専門工場の竜洋工場及び研究所完成
- 1988 アメリカにメディミュージックセンターInc.を設立
- 1989 河合弘隆 社長に就任 河合滋 会長に専任
- 1991 マレーシアにカワイアジアマニュファクチュアリング SDN.BHDを設立

- 1996 新 経営の理念、行動指針 制定
- 1997 カワイ精密金属㈱浜松事業所 ISO9002 認証取得
- 2001 インドネシアにPT.カワイインドネシアを設立
- 2002 中国に河合貿易(上海)有限公司を設立
- 2002 カワイ倫理規範、倫理行動基準 制定

- 2004 中国に河合楽器(寧波)有限公司を設立

- 1975 生産技術部に公害課設置 カワイの環境元年
- 1978 生産本部 環境管理課に改めグループ全体の管理

- 1994 地球環境憲章制定 シンボルマーク決まる
- 1994 全社的な推審組織の地球環境委員会発足
- 1996 環境推進室 に名称変更
- 1997 竜洋工場でISO14001 認証取得 楽器業界で世界初
- 1997 舞阪工場「静岡県労働基準局長 優良賞」受賞
- 1998 舞阪工場で ISO14001 認証取得
- 1998 竜洋工場「エネルギー管理優良工場」として
中部通商産業局長表彰
- 1999 メルヘン楽器で ISO14001 認証取得

- 2001 三木の里CCで ISO14001 認証取得
- 2001 タイプIII環境ラベル「製品環境宣言」JEMAI 開示
- 2001 舞阪工場「危険物優良事業所」表彰
- 2001 浜松環境フェア21へ出展
- 2001 東京ビッグサイト エコプロダクツ2001へ出展
- 2001 環境報告書2001 発行、環境会計導入
- 2002 三木の里「エネルギー管理優良工場」として中部
通商産業局長表彰 ゴルフ場として初の快挙
- 2002 環境報告書2002 発行
- 2002 環境経営学会「環境経営格付」評価
- 2002 焼却炉の廃止
- 2003 環境報告書2003発行
静岡エコステージ研究会にて第三者レビュー
- 2003 工場統廃合によるインフラの整備
- 2003 木屑ボイラーの廃止
- 2004 環境社会報告書2004発行
チュフラインランドジャパン(株)にて第三者意見
- 2005 竜洋工場が緑化優良工場として(財)日本緑化センター
会長奨励賞 受賞
- 環境社会報告書2005 発行
昨年に続きチュフラインランドジャパン㈱にて第三者意見
- 2006 河合楽器が静岡県緑化推進協会から「緑の募金」の感謝状
木材調達ガイドラインの開示

公害防止の時代

環境保全の時代

環境経営の時代

資料編

環境負荷サイト別一覧

		1990	2002	2003	2004	2005	増減率	
		参考	基準年		基準年比			
竜洋工場		静岡県磐田市						
●従業員数		234名		●事業内容			グランドピアノノ製造	
●敷地面積		168,218㎡						
I N P U T	電気	GJ	30,829	28,126	34,186	38,305	39,950	16.9%
	燃料	GJ	3,932	3,616	13,034	16,286	19,111	46.6%
	水	千m³	1,568	42.5	33.4	36.2	34.3	2.7%
	化学物質	ton		35.4	30.2	33.7	36.6	21.2%
	キシレン	ton			3.37	4.29	4.63	
O U T P U T	スチレン	ton			8.86	12.01	12.96	
	トルエン	ton			17.93	17.44	19.00	
	CO2排出量	ton-CO2	1,991	1,819	2,824	3,284	3,575	26.6%
	化学物質	ton		24.5	21.1	21.6	23.0	8.8%
	廃棄物 焼却・埋立	ton	89.3	39.0	113.4	152.5	38.6	-66.0%
	廃棄物 再資源化	ton	9.0	34.5	266.0	418.1	444.4	67.1%

株式会社カワイハイパード		静岡県浜松市中郡町					
●従業員数		98名	●事業内容				
●敷地面積		15,103㎡	自動車内装部品製造				
I N P U T	電気	GJ	14,787	10,228	10,828	15,404	121.7%
	燃料	GJ	11	4,067	3,755	5,945	105.7%
	水	千m³	28.6	9.62	11.4	12.6	28.9%
	化学物質	ton		30.40	24.1	37.0	143.5%
	キシレン	ton			1.98	4.30	8.15
	スチレン	ton			18.58	28.31	42.99
	トルエン	ton			3.56	4.40	7.55
O U T P U T	CO₂排出量	ton-CO₂	1,250	858	869	1,279	116.7%
	化学物質	ton		6.9	7.2	9.6	124.6%
	廃棄物 焼却・埋立	ton	218.2	136.4	94.2	114.1	100.3%
	廃棄物 再資源化	ton	32.3	14.7	14.1	12.4	234.8%

カワイ精密金属株式会社 浜松工場		静岡県浜松市新都田					
●従業員数		47名	●事業内容				
●敷地面積		26,817㎡	金属部品製造				
I N P U T	電気	GJ		27,417	29,265	31,883	34,274
	燃料	GJ		17.0	18.0	14.9	12.6
	水	千m³		66.1	21.7	20.6	21.4
	化学物質	ton		21.3	25.6	27.9	26.5
	テトラクロロエチレン	ton			25.60	27.94	26.50
O U T P U T	CO₂排出量	ton-CO₂		1,527	1,630	1,776	1,909
	化学物質	ton		1.1	1.3	1.4	1.3
	廃棄物 焼却・埋立	ton		84.9	57.2	53.9	66.4
	廃棄物 再資源化	ton		37.6	39.1	33.8	42.5

本社		静岡県浜松市寺島町					
●本社従業員数		447名	●事業内容				
●敷地面積		6,784㎡	事務、研究開発				
I N P U T	電気	GJ		10,628	10,086	10,418	10,032
	燃料	GJ		2,057	1,751	1,588	1,858
	水	千m³		11.3	11.9	11.7	12.3
	化学物質	ton					
	CO₂排出量	ton-CO₂		728	677	685	682
O U T P U T	化学物質	ton					
	廃棄物 焼却・埋立	ton		8.9	10.1	1.7	0.0
	廃棄物 再資源化	ton		30.0	28.9	29.0	45.6

作業環境 測定 事業場	有機溶剤				粉じん				等価騒音			
	測定 単位 作業場所 延べ数	管理区分			測定 単位 作業場所 延べ数	管理区分			測定 単位 作業場所 延べ数	管理区分		
		①	②	③		①	②	③		①	②	③
竜洋工場	37	32	5	0	21	15	4	2	28	2	10	16
舞阪工場	32	30	1	1	29	29	0	0	39	5	21	13
ハイパード	14	12	2	0	16	14	2	0	9	0	8	1
メルヘン楽器	2	2	0	0					2	1	1	0
KSK浜松	8	8	0	0	6	6	0	0	4	0	4	0
KSK松本	6	5	0	1	8	8	0	0	6	0	4	2
計	99	89	8	2	80	72	6	2	88	8	48	32
	100.0%	89.9%	8.1%	2.0%	100.0%	90.0%	7.5%	2.5%	100.0%	9.1%	54.5%	36.4%
2005年度に測定した単位作業場所の延べ数であり問題のある単位作業場所の絶対数ではありません。 粉じんについては当社は指定作業は無く、総粉じん(管理濃度4mg)にて管理しています。 等価騒音については特定機器による高騒音が多く保護具の着用にて管理しています。												
管理区分③：管理不十分で健康障害の危険がある。直ちに改善処置を講ずる必要がある。 管理区分②：直ちに判断を下すことはできない。定期的に測定を繰返して推移をみる。 管理区分①：管理状態が良好で健康障害の危険は少ない。良好な管理状態が持続するよう努力する。												

環境社会報告書 2006 の信頼性および客観性を高めるため
テュフラインランドジャパン株式会社の第三者レビューを受けました。

第三者意見



「河合楽器製作所 環境社会報告書 2006」第三者意見表明

株式会社 河合楽器製作所
代表取締役社長 河合 弘隆 殿

1. 検証の範囲及び目的、対象

テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社（以下当審査機関という）は、株式会社 河合楽器製作所（以下、組織という）が作成した「KAWAI 環境社会報告書 2006」に関して、

- ・ 環境報告及び環境パフォーマンスに関する情報に於ける、算出・集計方法の合理性と報告内容についての妥当性
- ・ 社会的報告の記載内容についての妥当性

について、独立した第三者機関の立場から検証を行いました。
検証目的は独立した第三者の立場から、意見表明を行うことです。
意見表明を目的として検証であるため、意見表明に必要な質的内容の検証は行いましたが、データの正確性についての審査は、行っていません。

2. 意見表明の手続き

当審査機関は、組織との合意に基づき、次の手続きで意見表明の為の検証を実施致しました。

- (1) 検証計画策定
- (2) 文書検証
環境社会報告書ドラフト稿（2006-08-30 版）による記載内容の確認
- (3) 現地訪問検証
2006 年 9 月 5 日に、河合楽器製作所本社及び舞阪工場への現地訪問を行いました。現地検証では、
 - ・ 環境担当役員・環境推進室責任者、舞阪工場担当者へのインタビュー
 - ・ 内部監査記録、推進室の第 2 者監査（環境測定及び順法評価）記録、ISO14001 外部監査記録、地球環境委員会議事録、リスクマネジメント委員会議事録、環境パフォーマンス記録、などの内部資料閲覧により、記載内容の質的な妥当性、重要な情報が開示されているかについて、確認致しました。
- (4) 改善推奨・是正要求を含む意見表明
本報告書意見表明書の「R」に記載された是正要求を行い、その対応についての確認を行いました。

なお、検証にあたって、環境省環境報告書ガイドライン、GRI サステナビリティリポーティングガイドライン、環境省環境報告書作成基準、を参考としていますが、これらガイドライン及び基準への準拠性を認証するものではありません。

3. 結論

以上の手続きを計画通りに実施し、是正要求を行った項目への対応が適切に実施されたことを確認した結果、テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社 報告書検証チームは、「河合楽器製作所 環境社会報告書 2006」が、一般に公正妥当と認められる環境報告書作成ガイドラインの一般的報告原則に照らして、重要な情報が網羅されており、記載情報の質的な正確性は高いと判断致します。

4. 意見表明

（C はコメント及び改善推奨項目、R は是正要求項目を示します。）

C-1. 現地訪問検証の間、環境への取り組みについて業界の中で率先して早い時期から取り組まれている事例を、随所に認める事ができ、大変好感が持てました。

例えば、古くは ISO14001 取得や、ピアノの LCA 評価などがあり、本年も、環境省の『環境報告書の信頼性を高めるための自己評価（試行版）』による報告書自己評価が既に実施された事（P.29）や、保管 PCB の処理予約が完了されていた事などがあげられます。

C-2 木材調達ガイドライン（基本理念及び基本方針）制定は大きなチャレンジであり、前進であると高く評価致します。ここから導かれた目標設定や実績が、来年の報告書にてどのように報告されるのかについて、期待しております。特に現状の調達に於ける順法管理状況や、そこに潜在する問題点及び対策などを、調査・検討した結果について、わかり易く開示頂きたいと思います。



C-3 世界一のピアノづくりを目指しての、“商品への思い”、“楽器製造や調律に関わる人創り”、について、読者に伝えるための、記載内容を増やしては如何でしょうか。特に“組織で働く人との関係”の項目に於ける重要な記載項目となるのではないのでしょうか。また、象牙代替鍵盤材料のファインアイボリーの発明協会受動賞受賞なども記載する良い事例と思われます。

C-4 人事に於ける順法状況（障害者雇用率や、再雇用状況など）や、休暇制度の活用状況及び活用した事例紹介など、社会性報告の報告内容を拡げることが望まれます。

R-1. 報告書記述内容が、報告対象組織全体なのか、河合楽器のみか読者が混乱しないように、気をつけて記載して下さい。例えば、

- ・ P.15-16 マテリアルフロー図に於いて、適用範囲が混乱しています。（“使用段階での排出がない”の記述は、電子楽器が考慮されていません）
- ・ P.18 法規制の順守状況及び、P.08 の 2005 年度の事故等の記載が、報告書適用範囲を全て含むのかどうか解りにくい表現です。（“当社はとの表記”、“水質汚濁防止法の届出にカワイ精密金属の水質特定施設届出が含まれていない”、“ISO 内部監査で順法評価実施という記載では、ISO 対象外組織はどうしているのか不明”など。）

R-2 CO2 換算係数が見直されています。基準年の数値も含む過去の再計算も行われていますが、見直し再計算を行った旨と、その理由を記載して下さい。

R-3. P.12 化学物質適正管理の項目にて、カワイ精密金属のテトラクロロエチレンの大気放出に関する報告書数値が、PRTR 法により届出られた数値と、大きく異なっています。（2004 年 PRTR 届出に於ける大気への排出数量 53 トンに対し 2004 環境社会報告書での報告数値 同 2.7 トン、2005 年環境社会報告書ドラフト 同 3.3 トン）2005 年の報告書記載数値に関して数値を検討し、整合させて下さい。また昨年違っていた理由も記載してください。

2006 年 9 月 12 日
テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社 マネジメントシステム部

検証チームリーダー : TUV CERT 上級主任環境監査員 環境報告書審査人 安本 潤

検証チームメンバー : TUV CERT 上級主任環境監査員 環境報告書審査人 藤田 ソニア 氏



第三者意見を受けて

第三者レビューの種類のうち、環境保全上の必要性等に照らして、独自の判断で環境報告書および事業者の環境への取組状況をレビューする「評価・勧告」タイプを用い第三者として「テュフラインランドジャパン株式会社」により三回目の評価を受けました。これらの評価・勧告を真摯に受け止め、今後の報告書開示に向け努力していきます。

なお是正を求められた項目について、以下のように対応致しました。

《R-1》	P15-16マテリアルフロー図における電子楽器の使用段階での当社の考え方を追記いたしました。 P18法規制の順守状況において記述内容に混乱を生じさせないように加筆致しました。
《R-2》	P13及びP15におけるCO2排出量算出においては、供給された電気量の場合の係数を「事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に係る省令」に基づき 0.555kg-CO2/kWh としました。また基準年を含む過去のデータも再計算し同一レベルで比較できるようにしてあります。
《R-3》	P12においてテトラクロロエチレンの大気への排出量とPRTR届出値に乖離があります。大気への排出量は溶剤回収装置通過後のデータを実績値としていましたが、その装置に不具合を生じていたことが判明したため、届出は大気への排出量を装置通過前量としています。（2005年度も同様です。） 完全修理し明確な値で届け出すべきと、思料しますが、塩素系有機溶剤の廃止・代替を第一義として装置の検討・改修を図っていますので、届け出は前述のとおりとなっています。但し本報告書への記載は管理状況報告の意味を含め推定値と致しました。次回の塩素系溶剤のPRTR届出については誤解を招かぬよう再考いたします。

2006 年版報告書の信頼性を高めるために自己評価を実施しました。
2005 年版報告書 3,000 部発行に対し、28 件の回答をいただきました。

2006 年版環境報告書の自己評価と 2005 年版のアンケート結果

自己評価について

環境省で、環境報告書を作成・公表する事業者を対象に環境報告書の信頼性を高めるために事業者自らが、その評価を行う場合の一つの手法を詳細に、かつ、分かりやすく解説した「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き」【試行版】が開示されましたので、早速対応しその結果を報告してカワイの自己評価とします。

アンケート結果

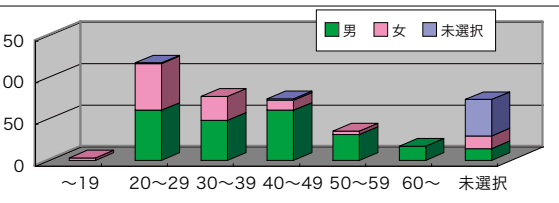
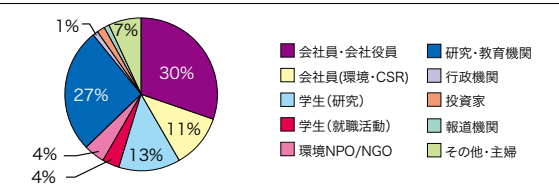
3,000 部の発行に対し 28 件の回答をいただきました。
0.9% の回収率でした。

Q 興味をもたれた記事、印象に残った項目は？

- 1 位 木材調達・グリーン調達
2 位 環境汚染物質への配慮
3 位 環境影響収支
4 位 地域活動への参画
5 位 地球温暖化防止

♪「製品・サービスにおける環境配慮」に皆さんの関心が集まっています。
2006 年版はその点に注視しました。

WEBにてご請求いただいた読者層
7月末までにご請求頂いた396名の内訳です



2005 年版に対するご意見と 2006 年版での対応

◎安易にわかりにくいカタカナ語を使い過ぎです。安っぽく感じます。
♪読者層によっては奇異に感ずるカタカナ語の認識不足がありました。
次年度では用語解説等を盛込みます。

◎国内での環境保全に対する活動を行う企業は多いですが海外でも
様々な活動を行っていることを知り好感が持てました。
♪P24 に本年度もインドネシアへの援助活動を記載しました。

◎木材調達ガイドライン検討案をより推めてくれることを望みます。
♪今年度の地球環境委員会にてガイドラインを発行致しました。P11 及
び当社ホームページに記載しましたのでご覧下さい。

◎ブルーの色が大変目立ちます。全体の色からしてももう少し落ち着いた
色を利用すると見やすいのでは？
♪貴重なご意見ありがとうございました。本年度は配慮しました。

◎弊社は廃棄物処理業ですので特に環境影響や環境経営に注目しまし
た。当社も目指すところでありますのでお手本とさせて頂きたい。
◎環境マネジメントシステムの PDCA がしっかり運用されている印象
を受けました。
◎社会性報告に関しまだ改善すべき点があると思います。もう少し詳
しい記述があった方がいいいと思われる点は
1. コンプライアンス
2. 人事制度（障害者雇用率、女子管理職目標数と実態 等）
3. 地域とのかわり
4 従業員のボランティア活動への参加実態 等
♪貴重なご意見ありがとうございました。参考にさせていただきます。

カワイ 環境社会報告書2006 へのご意見・ご感想

該当する項目に レ 印をお付けください。

Q1 環境社会報告書をどのようなお立場でお読みになられましたか？

- ☐ 投資家・株主として ☐ 河合楽器と取引関係にある ☐ 製品のユーザー
☐ 政府・行政機関 ☐ 環境NGO・NPOとして ☐ 報道機関
☐ 企業の環境担当者 ☐ 学生 ☐ 環境専門家・教育者・研究者
☐ 事業所近隣の方 ☐ カワイグループの従業員・家族 ☐ その他 ()

Q2 環境社会報告書を何でお知りになりましたか？

- ☐ ホームページ（当社・当社以外） ☐ 当社からの送付 ☐ 環境セミナー等で
☐ 新聞・雑誌 ☐ 営業マン・教室・先生から ☐ その他 ()

Q3 この環境社会報告書をお読みになってどのようにお感じになりましたか？

- ・ 報告書のわかりやすさは ☐ よくわかる ☐ 普通 ☐ わかりにくい
・ 内容 ☐ 充実 ☐ 普通 ☐ 物足りない
・ 情報量 ☐ 多すぎる ☐ 適切 ☐ 不足である

Q4 興味をもたれた記事、印象に残った項目は？(いくつでも)

- ☐ 表紙
- ◎はじめに
☐ カワイの事業と会社の概況
☐ 編集方針/目次/ホームページアドレス
☐ 社長コミットメント/経営の理念
☐ 経営計画/新中期経営改善計画
☐ 株式の状況
☐ 環境経営
☐ コーポレートガバナンス
☐ リスク管理体制
- ◎環境報告
☐ カワイの環境への取組
☐ カワイ環境方針/推進体制
☐ 環境経営
☐ 2005年度の環境目標と実績
☐ 環境マネジメントシステム
☐ 環境教育
☐ 環境会計
- ☐ 事業活動に伴う環境配慮
☐ グリーン調達の状況および方針
☐ グリーン調達
☐ 木材調達ガイドライン
☐ 化学物質に関する配慮
☐ 化学物質の適正管理
☐ 各事業所における環境配慮
☐ 温暖化対策
☐ 地球温暖化防止への取組
☐ ライトダウンキャンペーン
☐ 流通における温暖化対策
☐ 廃棄・再資源化
☐ 廃棄物削減と再資源化
☐ 容器包装リサイクル法
☐ リサイクル・リユース
☐ 環境パフォーマンス
☐ マテリアルバランス
☐ サイトでの取組例
☐ 法規制の順守
- ◎社会性報告
☐ 組織で働く全ての人との関係
☐ 人事制度
☐ メンタルヘルス
☐ 各種休暇制度
☐ 労働安全衛生
☐ お客様との関係
☐ お客様の満足を
☐ 社会貢献活動
☐ 環境コミュニケーション
☐ 情報発信
☐ ニュースリリース
☐ 地域活動への参画
- ◎資料編
☐ 環境負荷サイト別一覧
☐ カワイグループのあゆみ
☐ 第三者意見書
☐ 報告書自己評価結果報告
☐ 2005年版アンケート結果

Q5 環境社会報告書の内容についてのご意見や、改善するためのご提言をいただければ幸いです。

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下欄をご記入下さい。
(個人情報に関しましては、ご本人の承諾がない限り第三者に開示することは一切ございません)

お名前	ふりがな	男・女	年齢	歳
ご住所 (勤務先・ご自宅)	〒 -			
ご連絡先	TEL	FAX		
ご職業 (勤務先・部署・役職名)	E-mail			

FAX 053-457-1250

アンケート 用紙 株式会社 河合楽器製作所 事業企画部 環境推進室 行

加入団体において環境等の役務を担っているもの
静岡県環境保全協会、浜松市環境保全協議会、
日本作業環境測定協会、静岡県産業廃棄物協会、
全国楽器協会、全国楽器製造協会、
静岡県楽器製造協会、静岡県産業環境センター、
音楽電子事業協会、エコデザインラボ浜松、 など

KAWAI

KK 株式会社 河合楽器製作所
<http://www.kawai.co.jp/>

●お問合せ先
河合楽器地球環境委員会
事業企画部 環境推進室
〒430-8665 静岡県浜松市寺島町200番地
TEL 053-457-1252 FAX 053-457-1250
MAIL: kankyo@kawai.co.jp



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6% www.team-6.jp

カワイグループは「チームマイナス6%」に参加しています。



本環境報告書の用紙は、古紙配合率100%の再生紙で、白色度は80%。漂白のための塩素は使用せず、表面塗工および特殊コーティングも施していません。また、印刷インクには、「大豆油インク」を使用することにより石油系溶剤の使用量を減らし、VOC(揮発性有機化合物)が少なく、鉛・水銀・カドミウムなどの重金属類は使用していません。

2006.9発行